

《新発売》

ニュースメイト V50N *champ* *ACTIVE*
XT250T ニューカラー FZ400R



さらにパワフルさらに俊敏 champ 新発売

- カラー：
クリーミーホワイト/スペースブルー、
クリーミーホワイト/マキシムイエロ
ー、アップルレッド/ヤマハブラック、
グリタリングブラック/ポビーレッド
- 標準現金価格：11万9千円（北海道、
沖縄は3千円高）



ニューアクティブの新たな特徴

ハイパワーエンジンと前後輪標準装備のガスクッションが生み出す快適な走り、高級セダン感覚あふれるスタイルと充実した装備にアダルトライダーの根づよい人気が集まるアクティブが、一段とグレードアップして6月1日より新登場します。

1 6馬力にパワーアップした7ポート・トルクインダクションエンジンとニューパワフルマチックが生み出すゆとりある走り。

新聞配達のエキスパート ニュースメイトV50N新発売

- カラー：ストロングブルー
- 標準現金価格：13万9千円（北海道、沖縄は3千円高）



ニュースメイト——その名のとおり、新聞配達専用開発したスペシャル・メイトの新登場です。
タフな働きものV50ビジネスをベースに、機動性、経済性、積載性、耐久性など新聞配達に求められるすべての機能を盛り込んだV50N。代替、増車——商圏内の新聞販売店さんに、どうぞ積極的におすすめください。

ニュースメイトV50Nの主な特徴

- 1 タフで粘りづよい2サイクル・リードバルブエンジン。オートサーモコントロール付キャブレターで安定したアイドリング。リッター195kmの低燃費。
- 2 耐久性、耐摩耗性にすぐれた強力チェーン&スプロケットの採用。
- 3 二重構造エキパイと保温マフラーのクリーン設計。早朝の配達でも気にならない静かな排気音。
- 4 積載量に合わせて簡単に切替えられる5段階調整リヤサスペンション。
- 5 2・50・17幅広リヤタイヤの安定した走り。
- 6 頻繁な使用にも、つねに強力な制動力を発揮する130φ大径前後ブレーキ。
- 7 新聞の積載に合わせた大型リヤキャリアと頑丈なキャリアステー装備の大型フロントバスケットを標準装備。
- 8 早朝や夜間配達の安全を守るサブヘッドランプ（手元スイッチでヘッドランプと切替え式）
- 9 斜面でも車体をしっかりと支える強力スタンド。

ニュースメイトV50N仕様諸元

●全長1840mm ●全幅660mm ●全高1035mm ●軸間距離1170mm ●シート高740mm ●乾燥重量84kg ●舗装平坦路燃費95km/ℓ(30km/h) ●空冷・2サイクル・単気筒・49cc ●最高出力4.7PS/6000rpm ●最大トルク0.57kg-m/5500rpm ●始動方式キック ●点火方式CDI ●オイル容量1.2ℓ ●燃料タンク容量5.3ℓ ●ロータリー式3段変速 ●タイヤ(前)2.25-17-4PR(後)2.50-17-4PR ●ヘッドランプ6V25W/25W ●サブヘッドランプ6V15W

定評のポテンシャルを一層向上 NEW XT250T 登場

- カラー：スペースブルー
- 標準現金価格：36万9千円（北海道、沖縄は6千円高）



- 究極のデュアルパーパスXT250Tも、エンジンパワー、リヤサスペンション、フロントブレーキなど、キープイント各部を一段と性能アップして新登場です。
- ### ニューXT250Tの新たな特徴
- 1 デュアルパーパスモデル初のツインカム、4バルブエンジンをさらにパワーアップ。カムシャフトのリフト量、バルブタイミング、エキパイ・マフラー等の改良で、28PS/9000rpm、2・3kg/m/8000rpmのハイパワーを確保。エキパイ・マフラーの改良により低中速レスポンスもさらに向上。
 - 2 オフロード専用フロント・ディスクブレーキを新装備。泥の浸入や石うちを防ぐディスクプレートカバー付も、5段階ダンピングアジャスト機構を採用。
 - 3 リンク式モノクロスサスペンションも、5段階ダンピングアジャスト機構を採用。
 - 4 フロントオーバークラッパフェンダー標準装備。

人気のFZ400Rに ニューカラー追加



4サイクル・ミドル・スーパースポーツのベストセラー『FZ400R』にニューヤマハブラックとストームレッドのコントラストも精悍なニューカラーが追加されています。お客さまへのご案内どうぞよろしく――

なお、仕様、性能、価格などはすべて従来と同様です。

ニューチャンプの新たな特徴

鋭い加速と俊敏なフットワーク、走りの良さで人気のチャンプが、5・5馬力にパワーアップ、その魅力にさらに磨きをかけて新登場です。ツートンカラーもひとときわ新鮮。2年目を迎えてますます充実した「走りのチャンプ」が、この夏のヤング・スクーター市場を拡大します。

- 1 5・5馬力にパワーアップした7ポットトルクインダクションエンジンで、鋭いスタートダッシュ、小気味よい追越し加速を一段と向上。
- 2 電気式オートチョークの採用で、寒冷時の始動性改良。
- 3 アウターチューブの大径化やストロークの増大で、フロントサスペンションも性能アップ。定評の走りをさらに俊敏に。
- 4 ロードグリップを高めたニュースポーティバタインタイヤ。
- 5 見やすいスピードメーター、電気式フェユエルメーター、オイル警告灯に走行距離計を組込んだニューデザインメーターパネル。（すべてアナログ仕様）
- 6 スクエアタイプ・バックミラー装備
- 7 鮮やかなツートンカラーのボディとブラックホイールがマッチして印象も一段と精悍に。

5.5馬力エンジン NEW

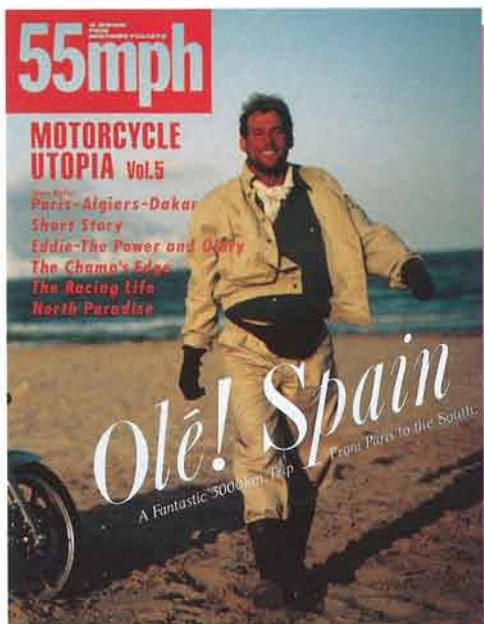


走りも、イメージも、グレードアップ! NEW ACTIVE 新発売

- カラー：セラミックホワイト/ローグロスグレー、ラベンダーシルバー/インクブルー
- 標準現金価格：16万8千円（北海道、沖縄は3千円高）



YAMAHA SPORTS BIKE CAMPAIGN



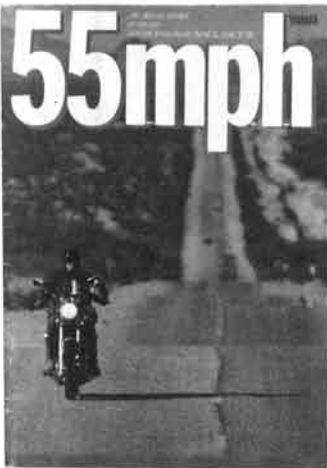
「ついでにもスタート！」

ヤマハスポーツバイクキャンペーン

モーターサイクルのすばらしさを幅広い人びとにアピールし、人間とモーターサイクルの理想的なかわりを追求して5年間とスポーツバイクの普及や市民権の確立に大きな役割を果たしてきたヤマハのマス広告キャンペーンが、こどももスタートします。いよいよクライマックスを迎える85スポーツバイク商戦に、お店でもこのキャンペーンをどうぞ有効にご活用ください。

『55mph』と雑誌広告の二本立て展開

多彩な媒体を通じて幅広いアプローチを展開するこのキャンペーン。その中心となるのは、ことしもスペシャルブック『55mph』と男性誌を通じての雑誌広告です。とくに、5号目を迎える『55mph』は、ヨーロッパ大陸の中でも独特の風土をもち、多くの人びとを魅きつけるスペインでのロケーション・取材を巻頭に特集。さらに、雪溶けの季節を待ちわびる北海道のライダーのルポルタージュ、おなじみの片岡義男氏のオートバイ小説、ワールドチャンピオンE・ロリンソン物語、全日本チャンピオンマシンFZR400開発ストーリー、モトクロス界のホープ天田淳選手ルポルタージュなども盛りだくさんの内容で、モーターサイクル・ユートピア



■VOL1 81年発行...アメリカ西海岸特集、モーターサイクル・ファッション、片岡義男のオートバイ小説、ライディング・テクニク解説、エンジンアタック・ロマン。

ア・バイクライフの、奥深い魅力を伝えるものです。

一方、右カラーページにご紹介のようなスペイン・ロケフォトを使っての雑誌広告は、「道楽道を楽しむ」をテーマに、ヤングアダルト層に人気の月刊『プレイボーイ日本版』(6月25日、7月25日、8月25日発行号)、『ブルーターズ』(6月15日、7月15日、8月15日発行号)の2誌を通じて、日頃モーターサイクルに接する機会の少ない人びとにまで幅広いアプローチを展開します。

55mphご希望の方は、切手500円分を同封して下記へお申込みください。〒104-91東京都京橋郵便局私書箱93号(5)ヤマハ55mph係

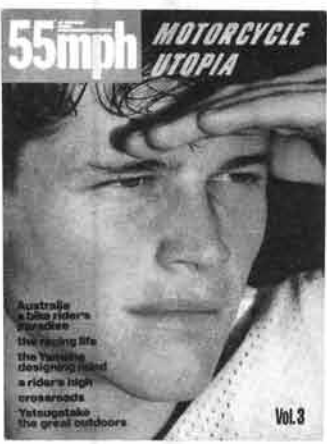


■VOL2 82年発行...北ヨーロッパ特集、ツーリング・イン・ヨーロッパ、グランプリ、バイクトーク、片岡義男のオートバイ小説、ライダーズ・メッセージ、ユートピア・イン・ジャパン。

『55mph』の活用で、お店から「夢」を売る

春から夏へ、スポーツバイク商戦も最高潮に達するこの時期をとらえて毎年展開しているヤマハ・スポーツバイク・マス広告キャンペーンは、すでに全国の販売店さんで、さまざまな形で活用されています。

▼スポーツバイク購入客へのプレミアム
▼自店クラブ員への年に1度の恒例プレミアム
▼マーケットリーダーのお客さまへのプレミアム
……といったように特別なお客さまへのプレミアムとして『55mph』を活用し、お客さまのお店に対する意識を高めるといことは、すでに多くの販売店さんで実施されていることです。また中には、ヤマハオートセンター(本社愛知県岡崎市)さんのようにビッグスケールで『55mph』を活用されているケースもあります。「内容的にも幅広い人たちにスポーツバイクへ興味を持たせるようなものですし、旅や人間を介させながらモーターサイクルの魅力を伝えていくという『55mph』の企画がツーリングを中心にスポーツバイクを打出していることとする店の方針ともびつたり合致していましたので第3号と第4号を店の独自の販売品として使わ



■VOL3 83年発行...オーストラリア特集、ライダー・ス・パラダイス・オーストラリア、レーシングライフ、ヤマハ・デザイン・マインド、山川健一の短編小説「ライダーズ・ハイ」、グレートアウトドアハック。

せてもらいました。ただし3万部前後だったと思いますが、全国51の直営店を通じて、新車と中古車の購入客にプレミアムとしてさし上げたんです。各直営店ごとのセールと併行してポスターに刷込んだり、店頭で告知をしたのですがお客さまの評判もよかったですよ。

値引きのことしか頭にないお客さまに対して、店を通じて「夢」を売ることができたことから、営業面でも効果があつたと思います。お客さまからバックナンバーの問い合わせもありましたね。やはり「夢」を売ることって大切だと思います。3年目の今年も、もっと効果的な使い方を検討しているところです」とは同社PR課の話。さあ、お店でもこの夏のスポーツバイク商戦に『55mph』をフルにご活用ください。また、これまでのバックナンバーは左のとおりですが第1号を除き、ストックを用意していません。第5号とあわせてご利用ください。なお『55mph』のご利用について詳しくは担当のヤマハマンにどうぞ



■VOL4 84年発行...イタリア特集、ピバ・イタリア、片岡義男のオートバイ小説、ケニー・ロバート物語、ヤマハ・アプローチ・フレーム、レーシングライフ、国内特集・神戸。

見てくれ!

マイバイク! ニューヤマハ!

デビュー以来快調なペースで、お客さまを増やしている85ヤマハ・ニューモデル。早ばやとオーナーになられたお客さまに、さっそく“満足”の声をうかがってみました……

FZ250 フェーザ

世界初の250CC、水冷4サイクル・DOHC・16バルブにゾッコン!

●木村元彦さん(22才・大学生・東京都目黒区)



16才で原付免許を取得してからというもののバイクのスポーツライフルに夢中。周囲の友人が、つきつきと4輪に乗り始めたいまも、わき目もふらずにバイク、筋という木村さん。車検がない、税金や維持費が安い、自分の体格にピッタリ、さらに都内の混雑した道路でもスリムで軽快……といった理由から、完全なクォーター派です。



心に決めていた代替モデルを急ぎよ変更!
「250cc単気筒スポーツに乗っていて次はVツインと決めていたんです。ところが専門誌のスクープ記事を見て、即FZ250(その時は名前など知りませんでした)に変更してしまっただけです。」

ポリシーのはっきりしたバイクを次つぎに出すヤマハは好きです。そこから世界初のハイクニズム・250ccが出たんですからね。それとデザイン、スタイルがとても気に入りました。いまのレーサーレプリカは、ジャンパーにスニーカーじゃ似合わないし、気軽に乗れないけど、FZ250ならそんなこともない。何よりもいままではないフォルムが新鮮でした。ヨーロッパのカスタムメーカーが丹念に造り上げたようなデザイン。いかにもヤマハらしいセンスだと思います。」



「一番感じたのが、ヒキキなエンジン特性じゃないかと思っていたんですけど、低速から高速までフラットなトルクで、加速がすごくスムーズ。実際にコントロールしやすいんですね。この前、6速で走っていて急に横からクルマが出てきました。ブレーキを踏んで20km/hぐらいいままでスピードが落ちてしまったんですけど、そのままアクセルを開けたら、ちゃんと加速していくんでビックリしました。」

トップスピード20km/hヒキキ!



「強烈なスペックだけど、街乗りもすごく楽。これがジェネシスの良さですか？ 未来的なフォルムは街で良く振り向かれますよ」と木村さん



コーナリングもとても素直ですね。思いどおりのラインでまわれる。ブレーキも握った分だけ確実に効くカンジで扱いやすい。それになんといってもジェット機のようなエキゾースト・サウンドが大好きです。「街中から峠やサーキットまで、オールマイティに楽しめるヨ」っていつも友人に自慢してます」
木村さんのFZ250は、もっか走行800キロ。お昼頃から夕方までの刷らし兼日帰りツーリングがほとんどですが、「そのパフォーマンスには、走るたびに驚かされてしまう」とゴキゲンな毎日です。

FZ750

斬新なスタイル、あふれるパワー
完全にいまのナナハンを超えている！
●井岡達哉さん（26才・会社員・東京都大田区）



ガソリンとシャシーの3級整備士資格も持っている井岡さんにとって「FZ750はパワーあふれるナナハン」



ユーザーのプロフィール
井岡さんはバイク歴10年。それも「TX500以来」とおっしゃる根っからのヤマハ党。それまで乗っていた250ccを中型免許を取ったばかりの妹さんに譲ってしまったために、新しい愛車としてFZ750を選ばれたのです。

オールマイティなスタイルに惚れた



「私の使用用途は100%ツーリング。ですからツーリングバッグなどの荷物を載せても異和感のないナナハンが欲しかったんです。その点FZ750は最高

購入動機
Gパンにスニーカーのチョイ乗りスタイルでもピッタリときまるし、もちろん皮ツナギなら一番ですけどね、そんなオールマイティなスタイルが気に入ったんです。世の中猫も杓子もレーサーレブリカでしょ。ジェネシスというヤマハの新しい考え方に大変興味を引かれました。前傾エンジンな

高速域からの伸びがスゴイ！



4月20日に登録というのに取材に伺ったゴールデンウィーク明けには、すでに2600キロも走っていた井岡さんのFZ750。そんなところからも、井岡さんの満足ぶりがうかがえるようです。

「実際に走り込んでみると、エンジンのとてもシャープなビックアップと太いトルクにビックリさせられますよ。データで7kgというトルクですからね。おまけに、高速域からその上の伸びがスゴイ。今までの750ccを完全に超えていますね。」

ポジションも僕にぴったりだし、足つき性ときたら250cc並み。コーナリングも安定

して、まるでレールの上をまわっている
じゃないかと思うくらいです。路面のギャ
ップに対しても挙動が穏やか、って専門誌で

も書いてありましたけど本当ですね。
パワーがあふれたオートバイ。乗っていて
余裕があるから、とても満足しています」

SRX600

オールドツクスなスタイルの中に 味があり、個性が光るSRX600が、 今あるバイクの中で一番好き！

●楠山 努さん (21才・大学生・千葉県船橋市)

ユーザーの プロフィール



大学3年生の楠山さん
はXS250に乗りな
がら、ひたすら限定解
除に挑戦、昨年9月に
みごとに念願を果たし
ました。

「全身で風を受け、体
全体でコントロールするのがバイク。走った
後の充実感は何ものにも代えがたい」とおっ
しゃる本格派のツーリングマニアです。

オートバイらしいオートバイだから：

購入動機



「最近のレーサーレブ
リカはどれも同じスタ
イルで、個性がなく、
どうしても好きになれ
ませんでした。カウリ
ングについても、僕自
身バイクは全身で風を
切って走るもの、という考えがあるのでなじ
めなかつたんです。
そんなことを考えているところへSRX6
00が登場して、久しぶりに興奮させられた
というわけです。

丸型のライト、タンクからシート、シート
カウルへ流れるライン、スリムなシングル・エ
ンジンとボディ。まさにオートバイらしいオ

ートバイクじゃないですか。SRX600に拍
手を送るような気持ちで、購入したんです」

この加速感は無体験！



以前からツーリング先
の時のワインディング
ロードで、2サイクル
スーパースポーツや4
スト・マルチに一步も
引けを取らずに走っ
ている4サイクル・シン
グルを見て「ぜひ乗ってみたい」と思ってい
たという楠山さん。さて、そのSRX600
評は――

「今までこんな加速感って味わったことあ
りませんでした。エンジンの鼓動とともに確
実にパワーが路面に伝わっていくようなダイ
ナミックな加速ですね。マルチのように、い
つの間にかスピードが出ているのは大違い。
コーナーでも寝かせやすいし、ファットワー
クも軽い。ブレーキングしても体が前にのめ
り込むような感じがないので安心です。振動
も気にならないなんてまずない。
後が見えないなんてまずない。
私が一番強調したいSRX600の良さは、
峠のワインディングロード。ゆるい登り、き
つい登り、大きいコーナー、タイトなコーナ

ーといろいろあると、マルチの場合1回チェ
ンジ・ミスをするると即パワーがなくなっちゃ
いますよね。でもSRX600なら、頻繁に
チェンジしなくてもスロットルワークだけで
行けちゃうんですよ」

「SRX600はツーリング専用」ともおっ
しゃる楠山さん。
「通学に混雑した街中をセカセカ走るのは
もったいない。SRXの本領が発揮できるの
はツーリングです。SRX自身も「峠に連
れていって」と言ってるようですから――
とSRX600への惚れ込みようも格別です。



「時間が経つほどに『自分のバイクだ、って
いう所有感が大きくなってくるんですね、SRX
って…』と楠山さん



BOX'N

おどろくほどの積載量 仕事にも生活にも欠かせません！

●久保田初子さん (37才・主婦・京都市山科区)



「スタイルがボチャッとしているので、乗っている人がスマートに見えるんですよ」なんて、ちょっと変わったおほめの言葉もいただきました



子育てに家事、それに
ご主人のお仕事の写真
材料店のお手伝いと、
一人3役をこなしながら
忙しく動き回る久保
田さんにとって、スク
ーターはまさに雨の日
も雪の日も欠かせない生活の足です。

荷物が積めてパワーがある



「主人の仕事の手伝い
というのは、京都市内
のお得意さんに、写真
材料を配達することな
んです。フィルムとか
色いろいろ積んで、1日に
40キロ以上は走るんで
すね。ですから、買い替えるんだつたら、荷
物が十分に積めてパワーがあるのがいいな、
なんて思っていたんです。
ちょうどそんなとき販売店さんから、ヤマ
ハから新しいスクーターが出たよ、と聞かさ
れました。朝「ボクスン」を見に行っ、ひ
と目で気に入ってしまい、昼すぎにはもう乗

ついででしたね(笑)」

2人分の雨具が
ボックスの中に収まった



「一番重宝しているの
は、何といってもボッ
クスですね。安全に荷
物を収納できるし、表
に出していないから走り
やすいですね。それに
おどろくほど量が入る
んですよ。この前、雨が降ったときなんか、カ
ップバと長ぐつ2足を入れて走り、主人にビッ
クリされました。それに仕事の帰りに買い物
して来ますが、家族4人分の買い物も楽に収
まりますね。
・もうひとつ気に入っているのは走りの良さ
です。店へ行く途中に五条坂という坂がある
んですけど、ここを登るときにスクーターの
調子が判るんです。「ボクスン」は馬力も十
分で、ちょっとアクセルを開ければ、スイス
イ登っていくし、乗り心地も最高。私のよう
な使い方をする人にはピッタリのスクーター
です」



都内の某女子高の3年
生、どこにでもいる普
通の女の子という感じ
の中村さんが、一念発
起してスクーター購入
を決意。お小遣いとア
ルバイトで貯めたお金
で、念願の夢を果たしました。

店頭で「キュート」から
「トライ」に心変わり



「学校の友だちの話を
聞いて、最初は「キュー
ト」を買おうと思っ
ていたんです。でも買
うときになったら、ち
ょうど「トライ」が発
売されたんですね。最
初はお店に置いてあるのを見たんですが、ス
タイルとか色(リゾート・ブルー)が気に入
って、「トライ」に決めました。それと新車

TRY
同じ色の『トライ』を買ったという
友人と湘南の海へでも
ツーリングしたいな!

●中村美穂さん(17才・高校生・東京都世田谷区)



種で、まわりの人があまり乗っていない、と
いうこともありましたが」
だんだん自分のスクーターだって
愛着が湧いてきました
「初めて乗ったスク
ーターなので、軽さとか
走りとかはよく判らな
いけど、私でも十分に
扱えるし、スピードも
出ます。それにTV C
Fで見るよりも実物の
方がカッコイイですね。自分の物だという実
感がして、乗っているうちに愛着心も湧いて
今は最高に気に入っています。
クラスの仲の良い友人が、いま免許を取ろ
うってガンバっていますが、その人は別のスク
ーターを買ったつもりでいたんです。でも私が乗
ってるのを見て、同じ色の「トライ」を買
いたいと言っています。この友だちと一緒に「ト
ライ」で湘南の海でも見に行けたら最高ですね」

バイクシーズン最高潮
東西南北*話題満開



ファン注目の中で、ロードレース初登場のFZ250フェーザー

『フェーザーでロードレースを』 そんなお客さまのための “NP・F”レースいよいよスタート!

水冷・4サイクル・4気筒・DOHC・16バルブ、レッドゾーン16000rpmという「FZ250フェーザー」のスーパーバフォーマンスを、ロードレースでフルに楽しんでみたい、そんな思いに胸高鳴らせているお客さまも多いことでしょう。

そんな期待に答えて、もっか人気絶好調のプロダクション・ロードレースに、“NP・F”（ニュープロ・フォー）クラスが誕生。その緒戦、ロードレースSUZUKI選手権第一戦が、4月29日に行なわれました。

●入門レースとしても最高の“NP・F”

まずは当日の様相からレポートしてみよう。この“NP・F”クラスの出場マシンは、4サイクル・250ccのみ。車両規定もMFJ「ニュープロダクション仕様」とあって、改造も大幅に制限され、ノーマル車に最も近いカタチで行なわれるものです。

それだけに、当日もレース初体験の女性ライダーからレース歴10年以上のベテランまで12台がエントリー。うち11台がFZ250というわけで、“NP・F”の主力マシンはフェーザーの印象を早ばやと与えていたほどです。「ニュープロ仕様だから手軽に参加できる。しかも操安性も抜群のFZ250だからライオン取りなどレースの基本を身につけるのにも最高」といった声が多数聞かれる中で、決勝では併催のF3クラス（FZ400Rなど）やノービス250ccクラス（TZ250など）にも一歩もひけをとらない走りを見せて、来場者の注目を浴びていました。

ちなみに、予選最高タイムをマークしたFZ250は1分16秒95。これはNP2502サイクル250cc・プロダクション部門のトップクラスに匹敵するタイムで、FZ250のハイポテンシャルを実証したものです。

この“NP・F”レースの車両改造規定はMFJ「ニュープロダクション仕様」。つまり、エアクリナーの取外し、キャブレターのジェットやニードル類の変更、マフラーの改造、

NP-Fは面白い!



「世界GPなんかには憧れていましたし、ロードレースも大好きなんです。友達に誘われて初めてロードレースに出場しましたが、楽しかった。FZ250はすごく乗りやすいですからネ」

●ロードレース初出場の宮崎好子さん
(20才・東京都)



「NP-Fは入門レースとして最適です。フェーザーなら扱いやすい変なクセもつかず上達も速い。F3のようにマシンに気を使わず走りに専念できるのがいいですよ」

●このレースで優勝した前山次夫さん
(20才・東京都)



「GPクラスやF1クラスは魅力もあるけど趣味で長くやっていくには負担も大きい。その点プロダクションレースは最高。今回も*らくらくクレジット。でフェーザーを購入、急きょエントリーしたんです」

●モータースポーツ歴19年の石原孝通さん
(39才・愛知県)



手軽に、クラブ全員で楽しく参加できるこの「NP-F」レース。お店でもFZ250フェーザーのお客さまを中心に取組まれてみてはいかがでしょうか。

☎03 (914) 4763

また、このNP-Fレースと同一レギュレーションのレースが、6月27日には筑波サーキットで「クォーター2&4ロードレース大会」として行なわれます。(主催・スタッフハウス 3-3127)

このNP-Fレースですが、ロードレースSUGO選手権シリーズとしては、今後も6月16日(メ切り5月16日)、9月22日(メ切り8月22日)、11月10日(メ切り10月10日)の3戦が予定されています。(詳細は、スポーツランドSUGO内・SUGOスポーツクラブ ☎022483-3127)

変更等だけが許容された改造範囲。それ以外はほとんどノーマル状態でレースを行なうもので、スリットタイヤ等は使用できません。またライセンス区分は「ノービス」。MFJロードレース・ノービスライセンスの取得には▼3時間以上のサーキットの走行証明、または▼ノービスライセンス講習会修了認定の証明が必要ですが、マシンといい、ライセンスといい、このクラスのMFJ公認レースとしては、最も手軽に、また最も経済的に参加できるのが、この「NP-F」レースといえるでしょう。(詳細はMFJ ☎03(561)8566)

バイクシーズン最高潮 東西南北*話題満開

YESSS加盟店 6店さん合同で お客さまへ遊びの提供

販売店さまとヤマハ、そしてお客さまがひとつになってくりひろげるモータースポーツ普及活動「YESSS」も、全国各地で大盛況。そんな中で、いま地域のYESSS加盟店さんが力を合わせ、より楽しいイベントを開催してお客さまに喜ばれているケースが増えています。



●2500名のお客さまが参集

ゴールデンウィーク最後の休日となった5月6日、静岡県の富士スピードウェイ・モトクロス場で開かれた「湘南モーターサイクルスポーツフェスティバル・オフロード編」も、まさにそんな大会。ヤマハ東京圏神奈川支店・西神奈川営業所管内のYESSS加盟店6店さんが組織した「湘南スポーツクラブ」主催の初のビッグイベントなのです。

「オフロード編」のタイトルどおり、モトクロスサーによるレースからDTやXTなどトレールバイクによるオープンレースさらにはスクーターによるオフロードレースまで、オフロードの楽しさを存分に堪能できるもろくさんの内容です。

当日は今にも雨が落ちてきそうな、あいにくの天候にもかかわらず、早朝から富士スピードウェイ正面ゲート前にはオートバイやトランスポーターの長い列ができるほどの盛況ぶり。地元・神奈川県下のYESSSスタッフをはじめ、遠く千葉県や静岡県からもエント



↑みごとなチームワークで、初の合同イベントを成功させた「湘南スポーツクラブ」のYESSS加盟店のみなさん

●YESSSを通じてバイクの本当の楽しさを

このイベントを企画し主催した「湘南スポーツクラブ」を代表して、神奈川県茅ヶ崎市のもりサイクル・森輝雄社長とオートプラザ水沢・水沢昇社長に、イベント開催までの経過をうかがいました。

「市場自体が相当に成熟した感のあるいまこそ、広くオートバイの環境全体を見直すべきだと思っんです。今の交通環境の中では、ユーザーはオートバイの本当の楽しさを発見できないままに終わってしまうんじゃないかと思っんですね。」

「売る以上は、売ったオートバイの性能に合った遊びと場所を提供していかなければいけない、本当の楽しさを味わえるだけの環境をつくってあげなければダメだ。」

それをやるには販売店の単独の活動では限



→「スクーターでもこんな遊びができるんだ」と、一番の人気を呼んだオフロードスクーターレースのスタート前

**バイクシーズン最高潮
東西南北*話題満開**

**元祖「イエス」
スポーツレジャー活動もひときわ活発**



度がある。本当にオートバイが好きで、損得ぬきの長期的な視野で市場を見ることのできる販売店が集まって協力し合わなければ環境の改善は図れない、そんなことを常日頃から語りあっていた、オートブラザ水沢さん、オートショップ中村さん、シングルロードさん、保田オートサービスさん、片野ライダーズサロンさん、そしてウチ(モリサイクルさん)の6店が集まったわけです」と、森社長。つづいて今回のフェスティバルについて水沢社長は――

「ひと言でいえば、遊びの提供。モータースポーツ普及の一環として『湘南スポーツクラブ』が主催した第1回目のイベント、ということですが、オンロードのお客さんにもオフロードの楽しさを、またオフロードのお客さんにもオンロードの楽しさを理解してもらいたいというのが、主催者側の第1番の狙いです。

それにサーキットという公道とは次元の違う場所を走ることによって、マシンとテクニクの限度を知ってもらい、日常の安全運転にも役立ててもらいたい。

せっかくYES Sという良い母体があるのだから、これを通して本当にオートバイの好きな人たちの面倒を見ていきたい、と思って企画したものです」

こうして、神奈川のYES Sスタッフの期待を集めながらスタートした『湘南スポーツクラブ』の活動。8月の『サマーフェスティバル』、9月の『モーターサイクル・スポーツフェスティバル・オンロード編』、そして各レースのシリーズ戦化……など、今後も6店さんのパワーを結集して、一層のもり上げが計画されています。

さて、お次に紹介するのも「イエス」加盟店さんの合同企画によるお客さまへの「遊び」の提供の例。しかし、こちらのグループは、「YES S」の元祖ともいうべき、販売店さんグループなのです。

●SUOGOで85ニューモデルを試乗

FZ750やSRX600/400、そしてFZ250フェーザーなど、85ヤマハニューモデルをサーキットでお客さまに体験してもらおう! 同時に新緑の中でミニ運動会、パーティ、ゲーム、バーベキューなどの素敵な時間を過ごし、バイク仲間同士の交流を広げてもらおう!

ご覧の写真は、こんな趣旨から都内城南地区のヤマハ販売店12店さんが構成するグループ「Y.E.S.」さんが主催した、SUOGOサーキットランの模様です。4月20日、21日の

2日間、会場のスポーツランドSUOGOには、東京から愛車を駆って、また乗用車やマイクロボスに分乗した総勢130名が集結。話題のヤマハニューモデルでのサーキットラン、ミニ運動会、パーティ……と盛りだくさんのメニューをたつぷり楽しみました。

「サーキット走行は初めての体験。最初は少し緊張しましたが、とても面白かった、最高です。ニューモデルも試乗できました、ゲームなども存分に楽しませてもらいました」

参加したみなさんの口からは、一様にこんな喜びの声が聞かれました。

**●サービスからレジャーまで、
拡大する活動範囲**

さて、この催しを開催した「Y.E.S.」さんは、創立8年の歴史を誇る、ヤマハ・エンジニア・ショップのみなさん。地域でお互いの



路面も真新しいSUGOロードコースで、'85ニューモデルを試乗する'YES'のお客さまたち

連携でお客さまによりキメ細かいサービスを
提供しようと結成されたものです。しかし、
最近ではその活動もサービスから「遊び」の
提供まで、きわめて幅広いものへと発展して
います。

「私たち、YES」は、ヤマハの職人の集ま
りというところでスタートしたんです。でも、
これからの商売は、販売、修理、用品や部品
などのサービスフォロワーだけでなく、レジャ
ーフォロワーが必要だ——という考え方でだ
ん活動範囲を広げているんです。

伊豆大島スクーターツーリングや、清里
ツーリングなど、これまでも色色いろなイ
ベントを開いてきましたが、今回はニューモ
デルでのサーキット体験とSUGOでのレジ
ヤーをバック。ヤマハには、こんな素晴らし



この日SUGOに集まった、
お客さまは130名

い施設があるんだということをお客さまには
非知ってもらいたかったんです。

ヤマハの政策で昨年からスタートした「Y
ESS」も、バイクを中立ちにして遊びの世
界を広げるという方向で各地で広がっている
ようですが、この「YES」のルーツに
なっているのが、私たちの「YES」じやな
いか、と私たちとしても、とても光栄に思っ
ているんですよ。これからも「遊び」の提供は
ますます大切になってくるでしょうからね

とは、この「YES」の会長を務めるYSP
成城（東京都世田谷区）の山口玩一社長。も
ちろん、この「YES」のみなさんも、同時
に「YES」加盟店として、お客さまへの
レジャーサービスに、ひととき熱心に取組
まれています。



→つねに時代に即したさまざ
まなサービスの提供を企画し、
実行する「YES」のみなさん
(3月下旬、ヤマハ東京(株)
城南営業所で)

YAMAHA RACING SPIRITS

証言で綴るヤマハ挑戦の記録

シリーズ3



特別増大号
1958年
国産車特集

7
1958

米国・カタリナ レースで疾走のヤマハ 250cc

海外レースへの雄飛 アメリカへ、ヨーロッパへ 東南アジアへ……

カタリナの神話

日本メーカーとして初の海外レース挑戦であった58年のカタリナGP。伊藤史朗とYD1改の活躍はレース中の注目を一手に集め、6位入賞。のニュースは、日本のマスコミをにぎわした(左は'58年7月号・月刊オートバイ誌の表紙を飾ったカタリナの伊藤史朗)

「GO/GO/YAMAHA」
青い眼をした多くの観客が、かつてないほ

どのすごい拍手と声援を送っている。遠い東洋の国からはるばる乗りこんできたヤマハの伊藤史朗に。伊藤はマシントラブルをもとにもせず、レース後半になって凄まじい勢いで数多くのライバルを抜き去り、レースファンの心を釘付けにした。

それは1958年5月、南カリフォルニアの太平洋岸から50キロほどのところにあるカタリナ島で行なわれた第8回カタリナGPのことだった。このレースは、アメリカの主要オートバイレースのひとつで、ロード20%、オフロード80%、ゴルフコースやジャンプまでもあるという変化に富んだ構成をしている。しかも、コースを下見することはできず、崖もたくさんある、というきわめて危険なレースでもあった。

この模様について、伊藤史朗に同行した川上源一社長(当時)に帰国後取材した塩沢昇一氏(モーターマガジン社・顧問)の回想がある。

「なにしろ伊藤選手は、外人のロヒゲ、アゴヒゲ、イレズミに圧倒されて緊張していた」ということでしたが、川上社長は伊藤君の實力を信じ、必ずよい結果が出る」と期待していたようです。これが現実には6位という成績を上げたとき、川上さんは飛びあがらんばかりの喜びようでした。27年も前のことですがあの時の川上さんの笑顔はいまだに忘れられ

ません。

国内のレースを総ナメにし、「今度は海外にも」 という積極的な姿勢でカタリナに乗り込んだのですからね」

その前年、1957年のカタリナGPのリアルトを見るかぎりでは、上位15台中にドイツ車が7台。あとはインディアンやペロセツトなど歴史あるメーカーのマシンだけだった。当然、今回のヤマハのエントリーにはアメリカ人の誰もが、東洋の国のオートバイなどに期待をかけていなかったのである。

6マイルのコースを10周(46・5km)する250ccクラスでは150台ものエントリーを数えている。日本人では大男の部類に入る伊藤も問題にならないような大きな男ばかりがたぐさんといったのだから緊張したのは無理もない。もちろん伊藤とずつと行動をともにしていた小野俊研究課長(当時)とメカニックの川村氏とて同じ気持ちだった。

ともかく初の海外レースは始まった。1周目、伊藤はセーブして8位で戻ってくる。2・3周は5位へ。しかし、コースのあまりにもひどい埃のためにプラグがブリッジ現象を起こしてピットイン、これで13位に落ちる。ピットは伊藤以上に動揺している。何と云って、初の海外遠征という気負いがあつたのだろう。修理後に再スタートを切るが、調子は戻らない。原因はハイテンションコードの差し違ひだった。ピリとなった伊藤は猛然とスパート。7周目に8位。9周目6位。激しい追い上げの途中で蹴飛ばされたり、ぶつつけられたりの妨害にもめげず、最後は6位でゴール。伊藤のすごい追いこみに観客はただア然とするばかり。他クラスも混走していたのである。実際には100台ほど抜き去つたことにな



初めて東洋から来たヤマハとイトーの話題は、アメリカ東部の新聞や雑誌にまで報道された。右はヤマハと親密な関係にあったマーティーズ・フォーリン・モーターズのライダー

る。観客だけでなく、ライバルのほすの他のチームの者が思わず拍手を飛ばしはじめ、そして終盤では「ヤマハ、ヤマハ」のシュプレヒコールまで始まった。伊藤は6位ながら、レース後もみくちやにされた。

「これは日本製か？」

「値段は？」

「1000ドルで売ってくれ」

「業者だ。取引しよう」

などなど、興奮まじりの質問攻め。そして翌日のシカゴやニューヨークの新聞、雑誌にも紹介され、彼とヤマハの名は一気に全米にひろがったのだ。

川上社長はインタビューに答えて――

「YA1はDKWのコピーだったが、今度のマシンはオリジナル。だから好成績を上げることができて本当に心から誇りに思う」としめくくった。カタリナ仕様のYD1改はアップフロー、ギヤをローギヤード化し、ハンドル形状も抑えの効くものに変更されていた程度だった。

アメリカ中のオートバイファンにヤマハの

名を知らしめた「カタリナGP」に続いて、9月1日の全米チャンピオンレース250ccクラスでは、50台のエントリーがあり、ヤマハのロックウッドが5位。続く2週間後のリバーサイド国際レースでパーベングースとロックウッドが2位、3位を占めるなど、ヤマハは多くのファンを作り始めていた。

ちょうどその頃、日本のオートバイの輸出は飛躍的に伸びようとしていた。1954年(昭和29年)ではオートバイ24台、スクーター187台だったのに対し、1958年(昭和33年)11月までの集計によるとそれぞれ873台、3362台という成長を見せている。そんな状況の中でタイムリよくヤマハは、どこよりも早くこの地で大活躍したのである。

最初の反応があらわれた。ヤマハのアメリカでの活躍がメキシコ市交通局の目にとまりさつそく150台の注文を受けた。そして慎重な市場調査と分析の結果、1959年1月に資本金16万ドルでヤマハ・デ・メキシコを設立し、のちにノックダウン工場を設置する。アメリカ大陸こそ、対欧州車との決戦の場であることを、充分に承知していた。ヤマハはまずレースに勝ち、商品価値を高め、そして市場を確保するという手堅い手法で順序よく世界に目を向け始めた。

縮少傾向の国内レース

1959年。一方国内では、最後の浅間火山レースが行われようとしていた。がしかし海外へ向けるムードとは違って、国内におけるレース姿勢は若干後退していた。

「ヤマハとしては国内外ともにオートバイが良く売れ、レース活動よりも、ユーズサービに重点を置き、このレースには積極的に参加しないという取決めをしたんですよ。ボクはデイトラーの人間だったし、さつそくスタンダードのYD1でエントリーをしたんです」と野口種晴。砂子や益子もこれにエントリーし、後にヤマハ入りした長谷川弘(昌和クルーザー)もエントリーする。このレースでは耐久ライト級350ccクラスで野口がYES(260cc)を駆り、見事優勝を飾った。



益子氏は今も4輪レースの世界で幅広い活躍を続けている

厚い世界の壁を知る

1961年。この年からヤマハは、レースのヤマハとして一層積極的に活動を始めた。まずは2月12日のデイトナU.S.GPへの挑戦だ。

「エントリーしたのは私と伊藤史朗。コースは大きなバンクを持つ雄大なオーバルコースの本格的なロードレースだったんです。59年の海外遠征計画によって作られていた幻の125ccレーサーYX18の発展型RA41が間にあわず、とりあえず250Sを持ちこみ私は冗談で、ブレーキトラブルのために8位になりました。このデイトナではパワーだけで

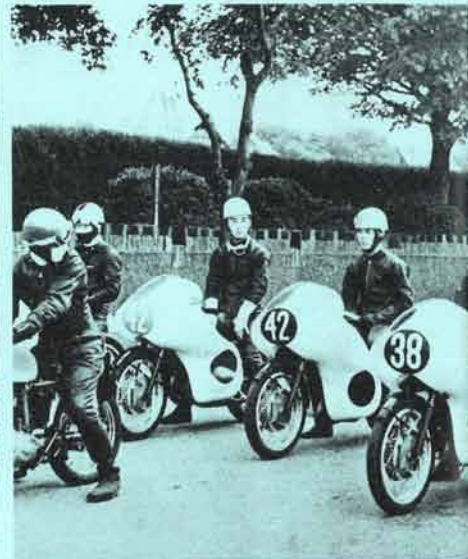
(写真)がデイトナに挑戦した。マシンはS1改。この時は砂子5位、伊藤はブレーキトラブルで8位に





↑'61年世界GPへの壮行会で。前列左から伊藤、大石、砂子、野口、益子のライダーたち。後列左から清水、寺田、関、畑、内藤(浩)、長谷川、宮地のヤマハ技術陣

→同じ'61年、長谷川弘と望月修はジョホールGP(マレーシア)へ。⑧長谷川はRD48で2位に入った



初挑戦の'61年マン島TTレースのプラクティスで④砂子、中央②大石、③野口のヤマハラライダー。マシンはRA41、RD48



ヤマハから4輪レースへ、そして今はビジネスの世界で活躍する砂子義一氏

「この時のヤマハには世界の絵舞台でも必ず勝つという、すごい意気込みがありました。来年こそ必ず」という。それは、生産ラインを止めてまでもレースを優先するというくらいに気迫でしたね。技術陣の熱気が、ひしひしと伝わってくるんですよ、だからライダー

1961年の世界GP年間ランキング9位に伊藤が入り、ヤマハとしては初の世界ランク入りを果たした。しかし、ヤマハはこの年に世界の壁の厚さを痛感し、マシンだけでなくチームの体制や運営などの面でも多くの改良を実行して、1962年への新たなステップとしたのだった。砂子氏はこの時の心境をこう語る。

ヤマハ全体にみなぎる熱気

なく、今までにないハイスピードだったのでタイヤも通用しないし、サスやチェーンもダメということが初めてわかりました。いい勉強になりましたね」



現在は浜松市でヤマハ専門店ハセガワカンパニーを経営する長谷川弘氏

「も真剣にならざるを得なかったんです。もとはといえば、'57年の第2回浅間火山レース直前の合宿の時に私のヤマハに賭ける気持ちがあったのです。渡瀬監督の厳しくも適切な指導も良かったのですが練習で疲れて帰ってきた選手たちに「選手から入りなさい」と川上社長みずから風目をすすめてくれたんです。みんな感動しました。その時に「この人のために、必ずやっつけてやろう」と心の奥深くで決意したんです。

社長の言葉も覚えています、

「最初は処女のごとく
おわりは脱兎のごとく」

人生はまさしくこれだと思いい、'62年へのヤル気が俄然てきたんです」

ビュートと同時に優勝を飾った砂子義一は、あまりにも大きな速いコースにショックを受けながら初の海外レースの思い出を語る。

デイトナに続いてヤマハは世界GPに向けて、野口、伊藤、大石、益子、砂子を送りこむ。まず5月21日のフランスGPでは、125ccクラスで野口8位、大石12位。250ccクラスで伊藤8位、野口10位。マシンは125がRA41、250はRD56だった。

続くマン島TTレースでは250ccクラスで伊藤6位、125ccクラスでは伊藤、大石野口が11、12、13位。そしてオランダGP、ベルギーGP、アルゼンチンGPと転戦したのち帰国。一方、東南アジアへは長谷川、望月の両選手を派遣。6月24日のジョホールGPで長谷川は250と125クラスともに2位となった。

'60年代初頭において海外の販売戦略こそ順調に進んだものの、ヤマハはこと海外のレースでは今ひとつ力を出しきれないでいた。しかし、'62年の第1回全日本ロードレースを皮切りに、天才ライダー伊藤史朗を中心として、ヤマハはメキメキとその本領を発揮するようになるのだった。(文中敬称略・つづく)

各界専門誌編集長が語る当世若者気質

Magazine & Magazine

Part.6

フィッシング

編集長 吉本万里氏



『フィッシング』

〔発行〕株廣済堂出版
〔創刊〕1968年10月。現在204号を数える。毎月25日発売の月刊誌。発行部数は20万部を超す。
〔読者層〕年齢別に分けると30-40歳代が全体の5割を占め、残る5割を20歳以下と40歳以上で構成している。20歳以下の中では14歳が最も多い。また、20歳代の読者は比較的小さい。
〔編集方針〕釣り・プラス1の“1”を重視して釣りだけの専門誌になることなく、釣りに付随するキャンピング、バードウォッチング、バックパッキング、ボーディング、ドライブ等にも関心を寄せた編集に心掛けている。
〔編集内容〕溪流釣り、清流釣り、湖沼釣り、海釣りのあらゆるジャンルの釣りに関する話題を網羅。釣りの

総合誌としての役割を守る。なお、株廣済堂出版では、『フィッシング』のほか『別冊フィッシング』(特集形式の専門雑誌)、『スポーツフィッシング』(入門研究誌)、『アングリング』(ルアーとフライの専門誌)という釣り雑誌も発行している。
〔編集長プロフィール〕1961年に入社し、『フィッシング』の創刊より企画に従事、創刊2号から副編集長、さらに15年前より編集長として活躍、ペンと竿による世界の自然体験も深い。現在は、『別冊フィッシング』、『スポーツフィッシング』、『アングリング』の編集長も兼務。1934年2月2日生まれ。血液型AB型。

ロッド・アンド・ガン(釣竿と銃)に象徴されるアウトドアブーム。ガンのほうはともかく、ロッドつまり釣りの愛好家は全国に約二千万人。休日ともなれば日本の海や川は釣り人に占領されてしまう。創刊以来15年、釣り人を見続けてきた『フィッシング』は、このブームをどう分析するか。

純粋釣り師に対して
プラス1派が台頭

今や、釣りはファッションなのではないかと思いませんか……
「ええ。長いこと釣り雑誌をやっている、変わったなァーと思うのはそこのです。最近の若い層はファッションから入ってきますからね。」

釣りがカッコいいから始めるんです。ですから釣りの中でもルアーやフライが好まれます。これは欧米から来てまして、イギリスなどでは紳士のスポーツとして、フライフィッシングはフォックスハンティングより高い位置にあるんですよ。
チャールズ王子も、ちゃんとしたフライ教師について、川のある別荘なんかで、技術からマナーまで習うわけです。もちろんネク

減速経済の到来が 自然II釣りをブームにした

「釣りバカ日誌」の主人公は出世より釣りにという人間ですが……
「釣り師にはそういう人が多いですね。ある大企業の部長さんなんです。他のセクショの部長はゴルフをやるのに、この人は釣り。釣りじゃなく、ゴルフをやっていたらもうと出世しただろうと言われてますよ(笑)」。そろそろ課長に「つてすめられてるのに、かんべんして下さいよ」と逃げ回っている釣り師

タイをしてね。そんなですから、ルールも技術も服装もバチツと系統だっている。紳士のスポーツという事です。
それともうひとつ、マインド。があります。釣りをスポーツ、あるいはゲームだとする精神——これは日本の釣り史の中では、明治維新のような変革期だと思えます。魚を食べることから離れた、スポーツ精神が受け入れられていくんです。
なるほど。でもマンガの『釣りバカ日誌』なんかは違うようですけど。
「違いますね。私は釣り人の中に2つのパターンがあると思うんですけど、純粋釣り師——初めから終わりまで釣りばかりというタイプと、釣りプラス1あるいは1プラス釣りというタイプの2通りです。
15年くらい前までは純粋釣り師ばかりだったのが最近では車が好きでどこかに行つたついでに釣りをして帰ってくるとか、キャンピングして、朝と夕方の方の一番いい時間だけ釣りをするなんてのが増えてます。「釣りバカ日誌」は純粋釣り師のほうなんですよ」

「日本人の体は、今こそパンやミルクです。昔は魚貝類で骨も肉も作られてきていたわけです。魚に対しての価値感が高いんです。市場でも明らかに値段がつけられていて、どの魚が高級で、どの魚が高級でないかがよくわかりますからね。」



フィッシングの兄弟誌。左より『アングリング』、『別冊フィッシング』、『スポーツフィッシング』

「余暇利用技術を身につけよう」が 「一家のリーダーとして必要」になった

いつでも入門
投げ釣り
講座

低水温時のポイントは根まわり

3-4月のいまは一番むずかしい月
キャスト・トレーニングもかねて江の島を釣る



竹人今朝男

なんです。釣りは魚を釣るだけのことでなく、社会的な意義を持つているのです」
すこいですね。
「ハッハッハ」

フラスコ派にとっては
釣りもキャンブは同列に並ぶ

ゴルフ型の会社人間より、釣り型の余暇人間の時代になるといふことですか。

「私はそう思っています。今、会社の中で認められているのはゴルフです。そもそも日本に入ってきた当時から社交の場になっていたこともあって、ゴルフは接待や社交でやりやすいし、ゴルフをやることは大目に見られても、釣りはどうも……つていうのはありますね。でも、モータリッに働いてもそうは良くならない、という実感が強いのですから」
「ゴルフか釣りかということになつて……」
「そういう傾向はあるでしょう。たとえば、早朝の新宿駅の1、2番線。列車ホームですが、行ってみると全部釣りに人がゴルフアアですからね」

「釣りに人というのは明るいんですか。一人でじーっとしてるから暗いのかなとも思うし太陽の下でやるんだから明るいのかなとも思っています」
「それは釣りのタイプのよるんです。純粋釣りに師は暗いところがあります。30年も40年も修業しないと、いわゆる名人、上手にはなれないわけですからね。ひとつのことを30年もつきつめてやれば暗くなりますよ」

「ところがフラスコ派というのは明るい。彼らが好むルアー、フライには秘密がありませんしね。ルールが確立されていて、学習と訓練によってけっこういいところまでいくんです。その上、アウトドアライフル全般をやるんですから」

「釣り雑誌も釣りだけでは対応できない、というところ……」
「雑誌を作る側としては、釣りに対象にするのは比較的やさしい。逆に難しいのはフラスコ派です」



店員教育が大切ということ……
「そうです。プロを相手にアドバイスするぐらいの程度の高い教育をしていますね。釣りの技術が進んでいますから、それに対応した販売をしなくては大きくなれません。昔釣りをやった、程度では客が満足しないんです。物を売るためには、それに関わる情報を提供しなくてはならないというのは、今や当たり前でしょう」
これは、メーカーについても言えるんですよ。たとえば夜中に車を走らせて湖へ行く、そしてボートに乗りかえて釣りをするという場合、車に乗せるボートだから、車に合ったサイズと造りにしなくてはいけないわけですね。ボートだけ考えて作ってはいけません。どの車にどういう風に乗せる、という設計があれば売れるんです」
「耳が痛いような(笑)」
「でもね、昔よりはやりやすいはずですよ。『フィッシング』で最初にルアーを取りあげたときなんか、ひっかけ釣りだと言われて、わかってもらえない。魚がルアーを口にくわえた写真をアップで載せたりね(笑)。今となっては信じられない苦心をしましたもの」

「ええ、我田引水でなく、暇ができたときに遊びとして選んだのが釣りだということ、これは国民的要求ですよ」
「これからは男子たるもの、余暇利用技術つまり、日曜日に子供たちを魚の釣れる場所へ連れて行って、キャンプやたき火をするぐらいの技術を持たないのはちよつと問題じゃないかと思えます。アウトドアで優れた技術を発揮することが、一家のリーダーとして必要

「それは釣りのタイプによるんです。純粋釣りに師は暗いところがあります。30年も40年も修業しないと、いわゆる名人、上手にはなれないわけですからね。ひとつのことを30年もつきつめてやれば暗くなりますよ」

「そうすると釣り具屋さんも変化してきているわけですか」
「ええ。まあ、釣り具屋さんと車売っているわけではありませんが(笑)、多様化と専門化に対応していかなくてはなりませんから。優れた店には、各フロアやコーナーが分野別になっていて、それぞれにプロ級の知識をもった店員さんがいます。これから釣りをやりたいという人が来ると、傘はどれ、ルアーはどれどれ、靴は、上着は、と全部教えてあげるから、販売面も伸びるんですね」

プロ化することにも
ジャンルの細分化も……

「そうすると釣り具屋さんも変化してきているわけですか」

最良の
ライフジャケットとは……



「最良のライフジャケットとは……」



情報スクランブル

●お忙しい販売店のための情報アンテナ

BOOKS

●話題のバイクをいち早く全解剖
『アドバンスがへんじ』

発売2ヵ月足らずでユーザーの間さまさまな話題を呼んでいるポテンシャル・シングルSRX400/600をまっ先に徹底解剖。オーナーたちのインプレッションや開発陣へのインタビュー、さらにサーキット走行用のチューンナップのハウトゥ解説からパーツリストまでも網羅したファン必携の一冊です。
例三栄書房/¥330



●シーズン突入、読んでおくべき
『バイクの旅・オンザロード』

数あるツーリング用ハウトゥブックの中でも、個性の光る一冊です。国内はもとより、海外へのツーリングノウハウもしっかりと紹介されているのですが、これがすべて実際に



走った人のエピソードで構成されているのです。他に国内ツーリングコースのあれこれや、国内外の観光問い合わせ先、メーカーのバイクサービスセンターの住所などもしっかりと収録されています。
グランプリ出版/¥1000

DISK

●忘れてたロックンロール
『Willie and the Poor Boys』

寝ても覚めてもバイクのことで頭がいっぱいのバイクフリークがいるように、フォークソングもジャズもおかまいなしでロックンロール1本槍という音楽好きも世の中にはいます。このアルバムは本場アメリカの、そんなロックフリークが集まって作ったもので、シングルでもノリのいいロックンロールが12曲、パツチリと詰め込まれています。
バスポートレコード (USA) ¥2180



WAVE・BEST5

流行発信地、東京六本木「ウェーブ」からの音楽情報。今回トップに躍り出たのは飢餓に苦しむアフリカの人びとを救うために、アメリカのトップアーティスト達が立ち上がって作った慈善アルバムでした。内容もいしほランティアにもなるこの一枚、BGMに使えばお店のセンスも光ります。

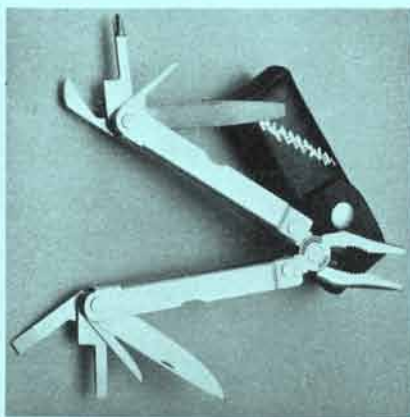
1位	WE ARE THE WORLD	USA For AFRICA
2位	No Jacket Required	パールジャズ
3位	Around the World in a day	パールジャズ、ジャズ・ポニー・エリ
4位	Private Dancer	スザンヌ
5位	Love Not Money	ヒンズ・バスター・ガール

TOOL

●ちゃんと役立つものを便利ものという
『レザーマン・ポケットサバイバルツール』

プライヤーをメインにナイフや⊕⊖のドライバー、さらにはカン切りやヤスリまでついたポケットサイズの高性能ツール。ツーリングやキャンプをはじめとして、日常生活の中でも持っていていけば必ず役に立つという便利ものです。

問い合わせ、銀座松坂屋別館・モノショップ
☎03(5772)1111 内線3573 / ¥18000



FIRST AID

●小さな傷口が大きく広がる前に
『ファースト・エイド・キット』

救急箱というと木製の大袈裟なものをとなく連想しがちですが、これはコンパクト(205×125×70mm)設計の防湿も完全な樹脂製。中に入れる薬品の種類も、例えば「ツリリング」に出掛けるからスリ傷と打ち身のツリリングを中心に詰め合わせてください」といった具合に左記に相談すれば、その用途に応じて自由に組み合わせられます。どんなケガでも赤チンでOKなんていうのは、気安めにもなりませんよ。

問い合わせ アメリカン・ファーマシー ☎03(2771)4034

EVENT

●8時間だけが耐久レースじゃない!
『85波3時間耐久ロードレース』

MFJのノービスライセンスとBロードライセンスの所有者を対象とした耐久レース。クラスはNPPI(ニュープロダクションII)。2サイクル250ccまで、4サイクル400ccまでとNPI(125cc)の2クラス。本格的ロードレースの登竜門となるプロダクション部門だけに、マナーや基本テクニックを身につける上でも有意義なレース。また出場マシンも市販ロードスポーツ車なので、観客にとっても親しみやすく楽しいこと受け合いです。

問い合わせ スタッフ・ハウス ☎03(914)4763 / 開催日・9月28、29日

●夏のツーリングプランはお得な東北へ
『チャレンジ東北』

東北6県にある12のユースホステルを全部利用すると、全員にササニシキ特上米5kgが青森リンゴ5kgがもらえるというキャンペーン。最初に宿泊したユースホステルでチャレンジカードをもらい、あとはカードに各県に2つあるユースホステルのスタンブをもらえばOK。他に1万円相当の旅行クーポンが当たる抽選もあります。
宮城ユースホステル協会 ☎0222(21)4747 / 期間・9月30日まで



♡ホイールのペイントが
思わぬジャン

多かれ少なかれ、人は自分の持ち物に対し
て自分の物であるという証しをつけたがるも
の。自分のクルマやオートバイにステッカー
を貼るのもそんな行為のひとつでしょう。

若いお客さまの集まる東京のT店さんでは
お店を訪れるスクーターユーザーが、それぞ
れステッカーを貼ったりアクセサリを着け
たりして個性化を図っていることに気づきま
した。そこで「これからの時代にはユーザー
のオリジナリティーを生かしてやるのも大切
な商売のポイントとなるのでは」と考え、
スクーターのオリジナルペイントへと発想を
展開していきました。

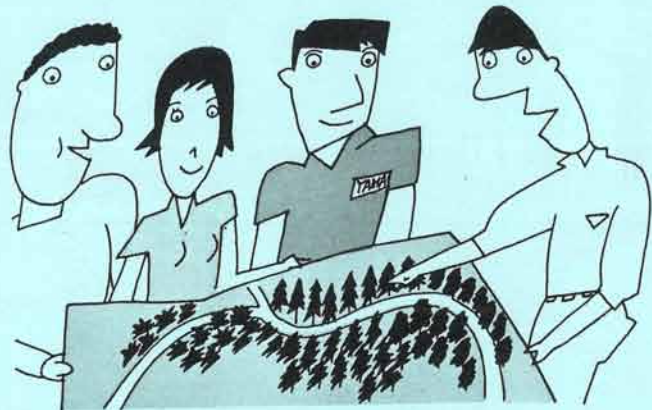
しかし、車体全部を塗っていたのではコス
トが大変。なんとか良い方法は、と考えあぐ
ねた末にホイールのカラーペイントを思いつ
いたのですが、これが大成功。

シルバーやホワイトだけだったホイールを
本体とコーディネートさせてペイントしただ
けのことですが、これでファッションにうる
さく、他に無いものをほしがるヤングの心理
をしっかりとつかまえたのです。

♡クラブ員の体験を持ち寄って
『体験林道ツーリングマップ』製作

本場にツーリングに役立つ地図というと、
とうてい市販のロードマップでは把握しきれ
ない情報が必要となってきますね。まして林
道ツーリングともなると、市販のものではま
ったく情報不足。そこで群馬県のS店さん
は、お店のオフロードクラブのお客さまの協
力を得て、スペシャル情報満載の『体験林道
ツーリングマップ』を作り、オフロードモデ
ルの拡販に役立てています。

これは、その名のとおりクラブ員のお客さ
まが実際に走った体験をもとにした手づくり
マップ。当然、道の幅や斜面の角度、路面の



状況、走り方のポイント、はては飲み物の自
動販売機の場所まで刻明に記入されています。
オフロードファンはやさしい心まで伝わっ
てくるようにこの地図、当面は季節ごとに発
行される予定ですが「先々はお店のオリジナ
ルマップとして集約したい」とお店のみなさ
んもハリキっています。

♡エッ、スクーターで峠道攻略？

この4月に行なわれた、全国一斉発表展示
試乗会」の神奈川県のある会場でのこと。ト
ライ、ボクスの試乗にやってきた高校生グ
ループに、ヤングのスクーターの使い方、を
聞いてみました。ところが……

「ツーリングに行ったり、峠のワインディ
ングロードを攻めるんだ。まるでスポーツバ
イクと同じ感覚。しかも、こうしてスクーター
で走りを楽しむ高校生は、1校に20人〜30人
もいるといいますから、2度驚きです。

当然、彼らのスクーター選びの基準も、実
用性を通り越して、パワーと軽さ、へ。この

日は「トライ」のうわさを聞いて乗りに来た、と
のことですが、これからのスクーターのセー
ルストークには、スポーツ車並みか、それ以
上のメカ解説が必要かも知れませんが……

♡お客さまは、きちんとした
テクニク指導を求めている！

毎年2回、春と秋に二輪車安全運転普及協
会が主催する。バイク・ワンデイ・スクール
にお店のお客さまを送り込み、お客さまのラ
イディング・テクニクの向上に役立てて喜
ばれている大阪のK店さんのお話です。

「毎回25名づつのお客さまを安全運転教室に
送り込んでいるのですが、近頃急に、参加希
望者が増えて、とても今の枠では間に合わな
くなっていくんです。教室の内容自体は、パ
イロン走行や一本橋、8の字など、基本を覚
えるためのごく普通のカリキュラムなんです
けど、なぜなのでしょうね？」

ここまで人気が出るということは、お客さ
んがライディングテクニクに飢えていると
いうか、ちゃんとした走り方ができていない
ことを自分で認識しているんじゃないで
しょうか」という時ならぬバイクスクール人

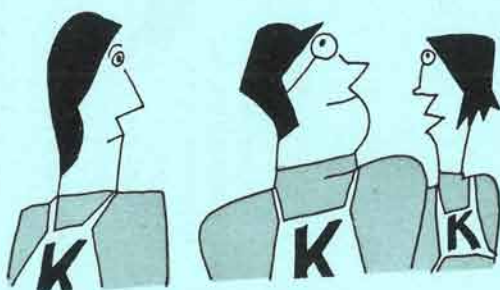
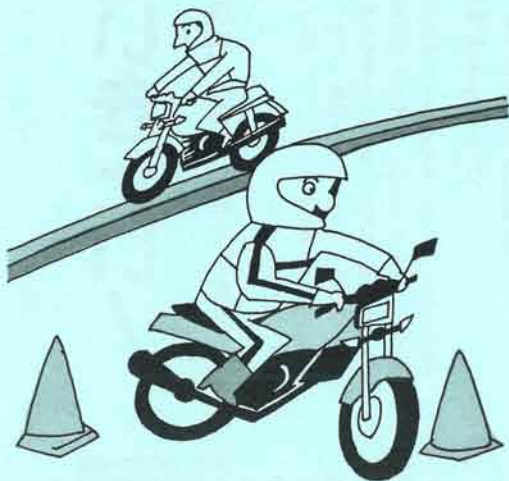
気集中の説明をしてくれました。
新規から代替えへとお客さまの中心が移行
しているだけに、この辺のアフターフォロー
が拡販への重要なキメ手になってきそうです。

♡イラスト・スパんで
お店の雰囲気一新

お客さまにとって入りやすいお店、入りにく
いお店を決める一番の要素、といえはこれは店
構えでしょう。熊本県のF店さんでは、商圏の
特長にあわせてカラフルで楽しいイラスト・ス
パんで、お客さまの人気を集めています。

「うちはスクーターやファミリーのお客さま
が中心ですからね。当然都会的なハイセンス
な感覚よりも、地元の人々が自然に受け入れら
れるような、やさしさ、親しみやすさ、を強
調してみました」

というわけでヤマハの統一スパンの無地の部
分に、緑を基調に、バイクの女性と男性が走る、
やさしいイラストを書き込んでみました。
たったこれだけの工夫ですが、これまでの
お店のイメージは一新。急にソフトな雰囲気
になって若い女性や主婦も気軽に立寄ってい
くといえます。





若いスタッフのフレッシュな感覚を100%引き出してご商売に反映させるのも、いまや浦崎店長(中央)の大切な仕事

従業員さん登場

⑥

仕事も人生も “ホンネ”でぶつかっていききたい!

浦崎 厚さん(32才) / 株レオタニモト・レオ西院店 / 店長(京都市右京区)

大手印刷会社のデザイナーをしていた浦崎さんが、京都市内に本社・支店3店を構え、従業員さんの数ものべ25名という大型販売店「レオタニモト」さんから、「うちで働いてみませんか?」と声をかけられたのが5年前。

「レオタニモト」さんのクラブの一員としてバイクを楽しんでいた浦崎さんは、同時に毎日の仕事に対しても「管理されすぎた大会社ではなく、自分の力を思いっきり発揮できる職場で……」と思っていた時期だけに、この

誘いは大いに心動かされるものでした。しかし、当時すでに28歳、一家を構え、3歳のお子さんもいることから、悩むこと1年。慎重に考えた結果、バイクセールズという第2の人生にトライすることになったのです。

●デザイナーから セールスマンへの転進

「現在の心境を一言で言えば、転職して良かった」ということです。自分に一番合っている仕事にめぐり逢えたと思う。大好きなオートバイに関わりながら仕事ができるということもあり、自分の能力を生かせるというところが一番の張合いとなっています。とおっしゃる浦崎さん。しかし、まったくの異業種からの転職とあってレオ西院店のセールズ担当時代は、それなりにご苦労も多かったようです。

「自分がその気になって仕事を見つけていかなければ、1日中何もやらないで済んでしまうんですね。『これを、こうしなさい』と言って仕事を教えてもらうわけじゃない。だから、他の人の仕事を盗むくらいの気持でない……。幸い私は、16歳からバイクに乗っていましたし、メカ好きだったこともあって修理や整備に関しては、他の人がやっているのを見つくり見ていけば、ある程度は理解できましたけれど、それでも無我夢中の毎日でした」

●お客さまにも、他のスタッフにも すべてホンネで!

浦崎さんの仕事に対するこんな姿勢が認められてか、1年前「レオ西院店」のオープンと同時に、店長の「大役に抜擢されました」

社長さんからひと言



谷本積代専務

ヤングの感性はヤングでなければ分からない。だからできるだけ社員個々の主体性を生かして、仕事の組立も社員の意志でやれるようにしています。若い社員たちとは、感覚が合わないことを前程としているので、浦崎店長にはその間の良いパイプ役となってもらっています。

立場が変われば、当然、仕事の幅も広がり内容も変わってきます。そんな中で浦崎さんが、いま一番心がけているのが、一緒に働くスタッフのみなさんとのコミュニケーションづくりです。

「サービスマン場のメカニック4名、用品コーナーの女性4名など、今ここで私と一緒に10名のスタッフが働いています。みんな若いので私と感覚的な面でズレが出ることもありますが、そこで、一緒に遊びに出かけたり、一緒にバイクを楽しんだりしながらコミュニケーションをはかっているんです。ホンネで接する。これは私の信条ですからね。」

「商売でも同じですよ。お客さんが気に入った商品でも、ウイークポイントがあればきちんとアドバイスします。そうすれば、お客さんもそれを承知したうえで、ホンネの物選びができ、その結果うちの固定客になってくれると思うんですね。」

「売ればいい、買ってくればいい」という商売ではなく、お客さんがどういう乗り方をしているのかということも聞きだして、本当に合ったバイクをすすめるようなホンネの商売をめざしているんです」

「というように、確固たるポリシーをもってご商売に取り組む浦崎さん。これからは遊びの提供を積極的に展開し、オートバイ本来の楽しさをお客さまに理解してもらって、行くんだと思ったら、買うんだと思ったらあの店」といわれる店づくりをしたい、と夢もいっぱい話してくれました。

ヤマハ、冠スポンサーに決定！ 初の太平洋縦断ヨットレース

世界初の太平洋縦断ヨットレースとして話題を集めている「メルボルン〜大阪ダブルハンドヨットレース」が、ヤマハ・大阪カップレースとして行なわれることが、このほど正式に決定しました。

このレースは、オーストラリアのメルボルンから大阪まで、赤道を横切り、全行程1万キロ以上におよぶもので、出場艇は全長10〜16メートルの外洋クルーザー。これを「ダブルハンド」つまり2人だけで操るといふ苛酷なレース。わが国では「ウイング・オブ・ヤマハ」が優勝した75年の「太平洋横断シングルハンドレース」につぐ本格レースとして注目されているものです。

ヤマハは、このビッグレースがもつ海洋スポーツ普及の大きな意義を重視して冠スポンサーを獲得したわけです。1987年3月21日、メルボルン港沖合からのスタートに、どうぞご期待ください。



4月24日、東京プレスセンターで行なわれた記者会見で「ヤマハ・大阪カップ・メルボルン〜大阪ダブルハンドヨットレース1987」の決定を発表するヤマハ発動機・小宮功常務取締役（右から2人目）

"合歓の郷"のお客さまに大人気！ トライアルのデモンストレーション走行

（ヤマハ中部機）三重県志摩半島のヤマハリゾート「合歓の郷」は、このゴールデンウィーク中もヤングや家族づれで大変な賑わいをみせていましたが、そんな中で初登場して人気を集めていたのが「トライアル」です。

じつはこれ、カートコースを開設したりレンタルバイクを設置するなどモータースポーツの導入に意欲的に取り組んでいる「合歓の郷」が、5月に開設する「林間トライアルコース」の事前PRを兼ねて開催もの。地元のヤマハ特約店（第一自動車（服部逸郎社長）さんと傘下の販売店、三谷モーターズ（三谷正次社長）さんの協力によって行なわれたものです。



↑くつろいだ雰囲気の中でトライアルの妙技を楽しむ「合歓の郷」のお客さま。ネムはいま、ちょっとしたモータースポーツブーム

↓三谷モーターズ・トライアルクラブのみなさん

合歓の郷モーターズスポーツ担当の森田チーフは「ゴールデンウィーク期間中を、**魂走**と名づけて色いろなイベントを組みましたが、モータースポーツ部門では昨年5月にカートコースがオープンしたこともあり、この期間をモータースポーツ週間としてとらえているんです。

今度オープンするTY80を使った、「林間トライアルコース」をはじめとし、ミニバイクレース大会など、今後**も第一自動車さんのバックアップのもとに、毎年この期間は「子供とモータースポーツの出会い」というテーマで、大々的にイベントを展開していくつも**



アトラクションとして「バイク・トライアル」も披露

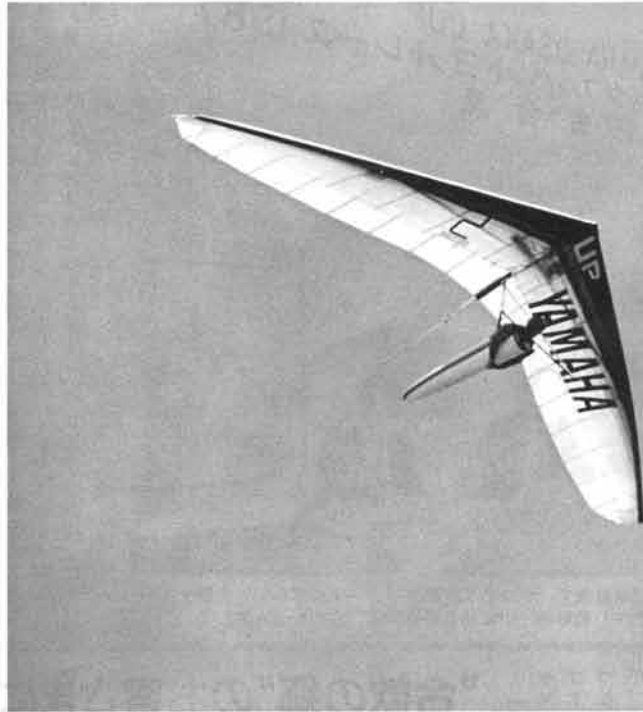


りています」

また今回のイベントに30名のクラブ員をつれて協力した三谷社長は「モータースポーツとはあまり馴染みのない家族づれやヤングに、オートバイの楽しさを理解してもらえないまま、オートのバイはスピードだけじゃないんだ、ということをも分ってもらえればうれしいですね」

この言葉どおり、ランド内の広場に設置された人工セクションを、つぎつぎにクリアしていく「三谷モーターズトライアルクラブ」のみなさんの妙技に、つめかけたお客さまからは惜しみない拍手が送られていました。

「'85別府・ヤマハスカイグランプリ」開催



↑翼に夢を乗せて雄大なスカイクルージング



←このグランプリの賞品には、ヤマハバイクも

鳥のように自由に大空を飛びまわるハンググライダー。実は、このスポーツ'88年のソウル五輪の次のオリンピック種目にノミネートされているほどのメジャースポーツなのです。

グのメッカといえば、昭和56年に世界選手権大会も開かれた大分県別府市の鶴見岳。ここでは、このゴールデンウィークにもヤマハ発動機、日本楽器製造協賛によるハンググライダーのビッグイベント「'85別府ヤマハスカイグランプリ」がにぎやかにくり

ひろげられました。一週間に渡るこのイベントには、ヤマハの契約フライヤーで、最長飛行距離354.4kmの大記録を持つナンバーワン・バイロット、ラリチュード選手もアメリカから参加して大会を盛り上げていました。

お客さまにも大好評！ 16店協賛の'85新車発表フェア！



G・クロスビー選手や 清水国明さんと一緒に、ヤマハに乗って ニュージーランドをエンジョイ

本格的ツーリングシーズンを迎えて、二輪専門誌の誌面も色とりどりのツーリング企画でにぎやかですが、これは先頃「ベストバイク」誌が企画しヤマハも後援した、清水国明とニュージーランドを走ろうという催しのひとコマ。

10日間にわたり、秋のニュージーランドをヤマハ・バイクで走ろうというこの企画には、日本から12名が参加。現地ニュージーランドでは、ヤマハ専門店を経営するかつてのヤマハGPライダーで日本にもファンが多いグレーム・クロスビー選手の内、芸能界で最も速い、清水国明さんとともにツーリング。ニュージーランドの自然にひたり、キャンプや乗馬も楽しんだり、愉快な10日間をすごしたものです。



スポーツランドSUGO おかげさまで10周年 『10 YEARS SUGO』完成

10 YEARS SUGO



総合スポーツランドとして昭和50年5月1日にオープンしたスポーツランドSUGOがおかげさまで、この5月に満10周年を迎えました。

これを記念し、みなさまの日頃のご愛顧に感謝してSUGOのモータースポーツ10年の歴史を一冊にまとめた

『10 YEARS SUGO』を完成いたしました。

TBCビッグロードレースをはじめとする名レースの数かず、キング・ケニー・ロバーツや故高井幾次郎、金谷秀夫らSUGOを彩った名ライダーたちの激走をまとめたA4判、132ページです。

お店にもどうぞお備えください。頒価1500円。

詳細はスポーツランドSUGO ☎0224831311へどうぞ。

●ヤマハニュースは、販売店みなさまの情報誌です。みなさまの積極的な誌上参加をお待ちしております。ご商売に関する話題、ご質問、ご相談なんでも精

春の交通安全運動 安全パレードに「トライ」もひと役

(ヤマハ東京㈱・北関東支店・前橋営業所) 春の交通安全運動は、今年も各地でもりあがりを見せましたが、群馬県では県二輪車安全運転指導委員会前橋支部が、前橋署や地元バイク愛好グループと協力して、交通安全「をアピールしました。とくに、広報パトカーと白バイの先導によるパレードは10キロの長さに及び、この中には8台のトライを先頭にしたスクーター部隊も登場して、道行く人の視線を集めていました。



800坪の会場に、500台の展示。そのビッグスケールがお客さまの人気を集めた

(ヤマハ東京㈱・東関東支店・水戸営業所) 4月13、14日の全国一斉発表展示試乗会で、例年になく盛り上がったスタートダッシュを切った'85商戦。ひきつづき各地でにぎやかなイベントが開催されていますが、こゝ茨城県水戸市でも、市内の千波湖駐車を会場に、2000人のお客さまを集めて、ヤマハ'85新車発表フェアが開かれました。管内の販売店16店さんの協賛によるこのフェアは、'85ヤマハニューモデル全機種から協賛店さんが持ち寄った中古車まで総計500台を展示。トライアル国際A級・工藤靖幸選手によるスタジアムトライアルコーナー、用品展示即売コーナー、協賛店さんの商談コーナー……などもりだくさんのコーナーも用意して、お客さまに1日たっぷり、ヤマハバイクを楽しんでいただけたものです。

今回のフェアを開催した協賛店さんとスタッフのみなさん



今年も好評開催中! ヤマハ技術講習会

販売店さんのサービス技術力のパワーアップにお役立ていただくとうとヤマハでは静岡県磐田市のヤマハ研修会館、東京・目黒の研修センター、東京・神戸市灘区の研修センターの3会場で、ヤマハ技術講習会を開講しています。講習会のメニューとしては、社長さん、サービスマ



4月3日～5日の『2サイクル単気筒』コース修了のみなさん(東京)



4月9日～11日の『4サイクルDOHC』コース修了のみなさん(東京)



5月8日～10日の『2サイクル2気筒』コース修了のみなさん(本社)

ンの方からヤマハ奥さまと対象にあわせての7コースを設定、それぞれ充実した内容で好評をいただいております。お店でも、このヤマハ技術講習会で、お店の技術力の向上をおはかりください。(なお、6、12月の開催スケジュールは、28ページをご参照ください)



↑こちらが日本でも人気のクロスビー選手が経営するヤマハ専門店
3月、ニュージーランドの秋をヤマハバイクで走りまわる参加者のみなさん→



250ccチャンピオンの実力を示してゴロワースカラーのYZR500で初優勝のC・サロン(写真は第1戦南アで)

●'85世界選手権ロードレースシリーズ

C・サロンの500cc戦目で初優勝!

チャンピオンE・ローソンが確実なレース運びでランキング2位をキープすれば、今シーズンから復帰したばかりのC・サロンが、大健闘をつづけるなど2台のヤマハYZR500の活躍で、GP500ccクラスは、一気に盛りあがってきた。

チャンピオン・ローソンの圧勝で開幕した'85シリーズの第2戦・スペインGPは、5月5日、マドリッド近郊のハラマサーキットに12万人の大



全日戦にわたる熱戦を展開中の全日本選手権ロードレースシリーズは、5月19日のSUGO大会で5戦を消

●'85全日本選手権ロードレースシリーズ

平忠彦/YZR500 無敵の4連勝!

化した。注目のメインレース国際A級500ccクラスでは、平忠彦とYZR500が文字通り、敵なしの

れのスタートとなった。

予選最高タイムをマークしたローソンはスタートに出遅れて1周目9位。6周目までに2位にまで浮上してトップのスペインサーに2秒と迫ったが、追い上げもここまでで、結局10秒差で2位となった。3位は、C・サロン。

ローソンとスペインサーが完全に同得点で迎えた第3戦は5月19日、ホッケンハイムリンクで行なわれた、西ドイツGP。

雨にもかかわらず、12万人の観衆がつめかけ、約6・8キロの高速コース19周に熱狂的な声援を送った。スタートよく飛び出したのはスペインサー。ローソン6位、サロン10位とYZR勢は出遅れた。しかし、3周目にローソンは3位、サロンは6位に進出。5周目好調の波に乗るサロンがローソンを抜いて3位に、さらに9周目には2位に上がった。大観衆の熱狂的な声援を受けて快走するサロンは、12周目ついにスペインサーも捕えてトップに立ち、以後もその差を広げ、最終的には2位スペインサーに約12秒の大差をつけて圧勝した。ローソンは4位。

好調サロンは、2分19秒88の最高ラップもマークしているが、彼は81年以來4年ぶりに500ccクラスに復帰しわずか3戦目での優勝。ヨーロッパ人ライダーの久びさの優勝とあって人気も急上昇中だ。

この結果3戦までのランキングは、スペインサー39点、ローソン35点、サロン30点とつづいている。

4連勝をマークし、3年連続の全日本チャンピオンへばく進している。

第2戦・筑波大会で今季1勝目を上げた平とYZR500は、4月21日の第3戦・鈴鹿でも、予選で2分18秒168とそれまでの記録を大きく縮める驚異的なラップレコードを樹立。決勝でも17周をポール・トゥーフィニッシュで飾って2勝目を上げた。

つづく第4戦・筑波(5月5日)でも平とYZRはポールポジションからスタート。決勝の30周でも、水谷勝とのデッドヒートに終盤24周目に決勝をつけて3勝目。

さらに、コース路面の再舗装もなつて初の全日本レースとして開催された5月19日の第5戦・SUGO大会でも、予選で1分02秒79の新記録をマーク。決勝でもライバルの水

谷、木下恵司さらに4気筒NSRの阿部孝夫らに大差をつけてポールトゥー・フィニッシュの4勝目。トータル97ポイントを上げ、2位水谷との差18ポイントでV3にひた走っている。

なお第5戦SUGO大会終了と同時に平は渡欧。6月9日の鈴鹿200キロまでの間隔を利用して、今年も世界GP2戦に挑戦した。5月26日のイタリアGP、6月2日のオーストリアGPの2戦にヤマハ・マルボロチームの一員として出場したものだ。

上野十FZR750も2位入賞!

一方、FZR750でF1クラスに挑戦している上野真一は、第3戦の鈴鹿で、予選3番手につけながら



↑路面改修後初の全日本レースとして注目された第5戦。ここでは平とYZR500は、ポール・トゥー・フィニッシュの圧勝で4連勝をマーク

SUGO初登場のFZR750と上野。2位入賞を果たして第6戦以降への期待を高めた



●'85全日本選手権モトクロスシリーズ 光安、ランキング2位に浮上 YZ勢の活躍光る国際B級



1、2戦と雨にたたられた'85全日本選手権モトクロスシリーズも、4月27、28日の第3戦・中国、5月11、12日の第4戦・鈴鹿と絶好のコンディションに恵まれシリーズ中盤戦のデッドヒートもよいよ白熱の度を増している。

この中で、YZ250で国際A級250ccに挑戦している光安鉄美は、

も決勝の2周目、他選手の転倒に巻き込まれてリタイヤ。しかし、第5戦SUGOでは、ジェネシスパワーを發揮して待望の2位入賞。8時間耐久の前哨戦、鈴鹿200キロ、へと期待をつないでいる。

●4輪F2レース 急ピッチの熟成に驚異の眼。'OX66'第3戦で3位入賞



全日本F2と富士GCの2シリーズに、G・リース選手(写真)のドライビングで挑戦しているヤマハOX66(SEBRING A GIP)は、急ピッチの戦力アップをつけて、ファンや関係者

を驚かせている。

3月のGC第1戦で5位入賞を果たしたOX66は、4月21日のF2第2戦・富士スピードウェイで、19周目にリタイヤするまで右リヤダンパーの破損にもかかわらず、優勝した中島悟、K・アチソン(いづれもホンダ)らを押えて2位を激走。つめかけた大観衆を仰天させた。さらに、5月12日の西日本サーキットでのF2第3戦では、テクニカルコースに5バルブエンジンの鋭いピクアップとフラットジャンクを發揮して一時は2位を快走。最終的にも3位入賞を果たした。



第3戦・中国大会の第1ヒートでもスタート後数ラップでトップに立つとそのまま独走で優勝。第2戦の両ヒート優勝から通算して3ヒート連続の優勝を決めた。

第2ヒートこそ転倒リタイヤに終わったものの、つづく第4戦鈴鹿でも第2ヒート、トップを行くS・マー

●'85全日本選手権トライアルシリーズ 伊藤敦志+TY350R首位を堅持!



チンと激しいデッドヒートを演じて2位に入賞。第4戦までの得点合計も90ポイントマーク。18点差で首位マーチンを追っている。ストップ・ザ・マーチンの一番手として快調なレースをつづける光安とYZ250に、いまファンの注目が寄せられている。

一方、国際B級でも125ccクラスで川崎智之(ムサシノライダーズ)また250ccで田淵武(大磯ムスタング)とそれぞれYZライダーが、ランキング・トップを行く活躍をつづけている。

のセクションが設けられ、5時間30分のタイムキーピングで、これを3ラップするというハードな大会。第2戦九州、第3戦四国ともつか連勝中の伊藤は、3連勝の期待を集めながら着実なトライを重ね、3ラップトータルで減点37、クリーン24をマークしたものの9点の差で惜しくも

先のシリーズ第3戦でランキングトップに躍り出た伊藤敦志とTY350Rは依然快調。第4戦でも確実に2位につけ首位の座を守っている。

シリーズ第4戦・東北大会は5月12日、秋田県協和町の荒川釜山跡に126台を集めて行なわれた。砕かれた岩石に履かれた難コースに、15



●2500CC級世界選手権モトクロスシリーズ 好調、ビモンド+YZ250改

2500cc級世界選手権モトクロスシリーズは、5月19日のチェコGPで6戦を終了した。

ヤマハYZ250改でこのシリーズに挑戦しているフランスのJ・ビモンド(写真は、第1戦・南アGP、第2戦・スイスGPと連続総合優勝を飾って幸先きよいスタートさらにこの第6戦も優勝を遂げて148ポイントを獲得。2位を17ポイントも引離してチャンプへの道を轟進中だ。

6月のレーシング カレンダー

- ▲6月2日
- ▼全日本トライアル⑤ 鶏頂山
- ロードレースGP⑤ オーストラリア
- 500ccモトクロス⑤ イタリア
- 125ccモトクロス④ フランス
- ▲6月9日
- 全日本ロードレース⑥ 鈴鹿200km
- 500ccモトクロス⑥ スペイン
- 125ccモトクロス⑤ ユーゴ
- ▲6月16日
- 全日本モトクロス⑥ 四国・松山
- ロードレースGP⑥ ユーゴ
- 500ccモトクロス⑦ オランダ
- 250ccモトクロス⑦ フランス
- 125ccモトクロス⑥ チェコ
- ▲6月23日
- 全日本ロードレース⑦ 筑波
- ▼全日本トライアル⑥ 富山・牛岳
- 250ccモトクロス⑥ スペイン
- ▲6月29日
- ロードレースGP⑦ オランダ
- ▲6月30日
- 500ccモトクロス⑧ アメリカ
- 125ccモトクロス⑦ サンマリノ

モータースポーツイベントや情報ツールの提供で、お客さまへ確実にアタック!

成熟期を迎えたモーターサイクル市場の中にあつて、いま求められているのは顧客の来店促進とお店の個性のPRです。不得定多数の人びとに対するアプローチではなく、すでにバイクに乗っているユーザーやバイクに関心を抱いている人びとに対する確実なフォローの展開。顧客のバイクライフをさらに充実させる情報の提供が、これからのご商売のカギを握っているといえるのです。そこで今月は、85商戦のピークを迎えるお客様のメンテナンスについて、お話ししましょう。

例えば、「バイクヒレッジ」ひとつをとってみても、そこには、お店と顧客とのコミュニケーション強化をはじめ、ツーリング活動の活性化など、数かずの効果が予測できます。そして、事実、具体的に活動展開しているお店では、ニューモデルへの代替促進などでその効果も顕著になっています。

モータースポーツ活動で話題作りを

すでにヤマハでは、YESSS(イエスス)やマハ・アースリー・スポーツ・システム)を軸にしたモータースポーツ&レジャーの活動を展開しています。具体的には、「SLサマーフエスティバル」や「バイクヒレッジ」を開催しているわけですが、お店でもこうした

情報ツールの提供で他店との差別化を

また、こうした傾向は、ことイベント動員だけでなく各種の情報ツールの提供においても、同様な現象をみせています。具体的には、ヤマハの「WAY」や「55mph」、「ジェネシスブック」などオリジナルブックや各種ビデオの提供。店頭の話作りを活用することで他店との差別化を図り、顧客

の来店を促進しているのです。ヤマハでは、この夏、それぞれの地域特性に合わせたセールス・キャンペーンを計画し

ていますが、皆さまのお店でもこの最需要期にこうした顧客に対するアプローチを積極的に展開して、85商戦の盛り上げをお図りください。



SERVICE

ヤマハ技術講習会でサービスマン技術をアップ!

お客さまの信頼獲得に不可欠なお店のサービステクニク。従業員さまのサービステクニク向上のために、ぜひヤマハの技術講習会をご利用ください。現在、ヤマハでは以下の7コースを開設して、2~5日間の技術講習会を開催しています。受講をご希望される方は、お早目にご予約くださいますようお願い致します。

〈2サイクル単気筒コース〉

- 所要時間/2日間および3日間の2コース
- 内容/サービスの原点「点検整備の基本テクニック」を基礎理論から判りやすく指導します。
- 日程/ヤマハ研修会館(警田) 11/10、8/28、11/7、8/21、11/19、8/12、11/26、5/7、8/7、9/11、6/8、21、23、

〈4サイクルDOHCコース〉

- 所要時間/3日間
- 内容/水冷4気筒DOHCエンジンの「点検整備と計器・テスターの使い方」を基本テクニックから指導します。
- 日程/ヤマハ研修会館 11/13、10/6、4/6、12/11、13、11/13、10/2、4/6、18、20、8/6、8/9、9/10

〈電装コース〉

- 所要時間/3日間
- 内容/故障修理の原点「電気の基礎知識」と電装品の「作動原理、点検方法」を判りやすく指導します。
- 日程/ヤマハ研修会館 6/5、7、9/4、6、

〈女性コース〉

- 所要時間/3日間
- 内容/商品説明や点検整備に役立つ「基礎理論」や「基礎テクニック」を判りやすく指導します。
- 日程/ヤマハ研修会館 6/5、7、9/4、6、

お揃えください!
'85サービスマニュアル

各機種モデルチェンジ、マイナーチェンジに伴ない、サービスマニュアルを改訂または補足しております。皆さまのお店にもぜひお揃えください

①SR400/500(1JR-28197-00)	6月上旬 完成予定	¥2,500
②RZ125補足版(1GV-28197-50)		
③CH50E補足版(1GJ-28197-50)		
④CJ50E補足版(1JX-28197-50)		
⑤XT250T補足版(48Y-28197-50)		

整備に必要な「基礎知識、基礎テクニック」を厳しく指導します。
※詳しくは、最寄りのヤマハ特約店・販売会社の営業技術課までお問合わせください。

SALES

- 恒例の「SLサマーフェスティバル」が、目前に迫ってきました。全国7ブロックに分かれてのビッグイベントですが、今年はさらに内容も充実。それぞれの地域特性を生かしたユニークな企画を盛りこみ、盛大に開催されます。
- 『85SLサマーフェスティバル』の概要
- ＜北海道＞
○期日／8月3～4日
○会場／ルスツ高原特設会場
○内容／SLモトクロス、三輪バギーレース、SLカートレース、6時間耐久スクリューレース、前夜祭・キャンプ、他
- ＜東北＞
○期日／8月3～4日（カートは11日）
○会場／スポーツランドSUGO
○内容／3時間耐久ロードレース、SLモトクロス、SLトライアル、サーキット体験走行、前夜祭、キャンプ、他
- ＜関東&中部＞
○期日／7月20～21日
○会場／富士スピードウェイ



○内容／SLモトクロス、SLトライアル、SLカートレース、SLスクーター耐久レース、国際A級ロードレースライダー模範走行、サーキットラン、

- 有名ライダーサイン会、バイク用品即売会、オリジナルグッズ即売会、バイク展示、デモンストラーション、SRミーターリング、ライダーズ・インタビュー、他
- ＜関西＞
○期日／8月3～4日
○会場／グリーンピア三木
○内容／YES対抗競技会、ツーリング、キャンプ、バーベキュー、ライダー交歓会、カラオケ大会、花火大会、他
- ＜中国＞
○期日／8月3～4日
○会場／大山鏡ヶ成キャンプ場
○内容／キャンプ、ディスコ、カラオケ大会、他
- ＜四国＞
○期日／8月3～4日（カートは25日）
○会場／久万高原ふるさと村
○内容／キャンプ、ライダーサイン会、カラオケ大会、ドジョウすくい大会、他
- ＜九州＞
○期日／8月3～4日（カートは7月21日）
○会場／熊本県スコリー菊池高原

お店に1本おそろえください！
'85モータースポーツ
ビデオカタログ

ヤマハの海外モータースポーツ活動を収録したビデオ・カタログを兼ねた『85モータースポーツビデオカタログ②』ができました。プロローグの部分にFZ400Rのデモンストラーションテープ、エピローグの部分にRZV500Rのイタリア取材テープを収めたこのビデオカタログでは、全部で11本の海外レースビデオを紹介。お客さまへのビデオPRはもちろん、店頭でのバックランドビデオとしても有効にご活用いただけます。

○時間／45分 ○単価価格／¥2,000円
※担当セールスマンにお申込みください。

※詳細は、最寄りのヤマハ特約店および営業所のセールスマンにお問合せください。

○内容／前夜祭、ファクトリーライダーサイン会、ロックコンサート、他
イベント内容については変更されること
もありますのでご諒承ください。

店頭指導の徹底で安全運転の啓蒙を図ろう！

夏の恒例となった「二輪車安全運転推進月間運動」の実施要項が決定しましたので、ここにお知らせします。皆さまのお店でも早速して運動の展開にあたり、一件でも二輪車



事故を減少するようお願い申し上げます。

『85二輪車安全運転推進月間運動』実施要項

- 目的／二輪車を利用する人の安全を確保して、二輪車による交通事故および公害を減少させる。
- 期間／85年7月10日（水）から8月9日（金）
- 指導／警察庁・総務庁、運輸省・文部省
- 主催／財団法人二輪車安全普及協会
- 重点項目
- ①「思いやり運転」の普及徹底
 - ②沿道住民への「思いやり」
 - ③交通弱者への「思いやり」
 - ④路上で困っている人への「思いやり」
 - ⑤四輪ドライバーによる二輪車特性の理解とこれへの「思いやり」
 - ⑥「ワンポイント・アドバイス運動」の強調
 - ⑦婦人ユーザーに対しては「一時停止と合図」の励行を

- 重点事項推進要領
- 地域普及協会員または府県・地域
- ②若者ユーザーに対しては「安全速度」の遵守を
 - ③年配ユーザーに対しては「飲酒運転」の禁止徹底を
 - ④ライダー全般に対しては「目立つウェアの着用、薄暮れ時点灯車両の点検および自賠責付保」の励行
 - ⑤ヘルメットの着用励行の普及推進
 - ⑥高校における交通安全に対する協力
 - ⑦交通安全教材の活用・支援
 - ⑧高校に対する二輪車安全指導要員の派遣・協力
 - ⑨高校生に関する交通安全シンポジウム等の推進・協力
 - ⑩原付技能講習の100パーセント受講

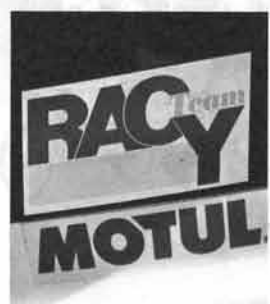
普及協会は、二輪車販売店店頭、街頭または高校、職場等において次のことを留意して実践的活動を進めるものとする。

- ①店頭個別安全指導を通じて（会員個々の活動）
- ②「思いやり運動」の普及徹底
- ③「ワンポイント・アドバイス運動」の強調
- ④原付技能講習の100パーセント受講
- ⑤街頭指導、集団講習等を通じて地域協会としての活動
- ⑥高校における交通安全に対する協力
- ⑦職域、地域等に対する交通安全の協力
- ⑧街頭指導に対する協力

※右記の詳細は、最寄りの財団法人二輪車安全普及協会もしくはヤマハ安全運転普及課までお問合せください。



SUGOのパドックを埋めたマシン&ライダー。プロダクションレースを中心にロードレース人気も最高潮



チームレーシー

モトレシーよねくら、米倉征三社長
宮城県仙台市遠員塚2-528-1

活動を始めてまだ10カ月足らずという「チームレーシー」。でも抜群のチームワークとなごやかな雰囲気は、もう10数年もつづいているような錯覚を起こさせるほど。スポーツランドSUGOのニュープロダクションレースでは、今や欠かせぬ存在です

●NPから確実にステップアップしていけば……

「チームレーシー」は、その名の通り、レーシングクラブです。下は15歳から上は48歳と幅広い年代の人たちが35名、それぞれにロードレース、モトクロス、トライアルを楽しみ、同時に7名の女性会員がヘルパーとしてクラブに参加しています。

半数以上の会員がロードレース派というのは、やはり昨今のロードレースブームを反映しているのでしょう。しかし、ロードレースとはいっても中心は、市販スポーツモデルで楽しめるニュープロダクション(NP)クラス。「店に初めてやってきて、いきなり「クラブ」に入ってF3レースをやりたい」なんて人もいます。でもうちのクラブでは、全員にNPレースから始めるように指導しているんです。NPならお金もかからず基本からしっかりとマスターできる。無理しても途中で挫折してしまうのは目に見えてる。それよりも自分のテクニックに合わせて、安全に楽しみ少しづつステップアップしていけばいいんです」

——という米倉社長の信念で、NP中心の活動となっているのです。

●1人ひとりが責任を持てば……

「モトレシーよねくら」さんのオープンが昨年の7月。クラブの発足はひと月後の8月からですから、まだ1年にもならないフレッシュなクラブ。

でも、昨年11月にスポーツランドSUGOで行なわれた3時間耐久ロードレースでは、RZ250RRのクラブ員がみごと優勝するなど戦績もなかなか。その勢いにかけて今年度は、SUGO選手権ロードレースシリーズの4戦すべてに、RZ250R、FZ400Rなど8名がエントリーしています。

活動が軌道に乗り、成績が良くなればなるほど、クラブの雰囲気もエスカレートしていく



モトクロス、スノー……ノ一モビル、トライアル……22年のヤマハに乗って今はクラブ運営、今では生かす米倉征三社長

NPから安全にロードレースを楽しむ。 少しずつでも確実に レベルアップすればいい。



くのがレーシングクラブの常。しかし、こうした点についても「チームレーシー」では、「クラブとはいってもあくまで個人の集まり。モータースポーツ好きな人が、自分のテクニクを確かめ、アップしよう」とレースに出場しているんですから、無理にクラブ意識や仲間意識を強制したりしません。ですから、みんながアツクなくてエスカレートしてしまうこともない。レースはあくまで個人のスポーツ、1人ひとりが責任を持って楽しめればいいですからね——と、あくまでも明るく、レースを楽しんでいるのです。

実際「チームレーシー」のクラブ員が、持ち寄ったお弁当を食べながら、にぎやかに笑いあっている家族的な姿は、スポーツランドSUGOのパドックでは、もうすっかりおなじみとなっています。

● 入会条件は、協調性だけ

クラブ員1人ひとりが責任を持って楽しめばいい——一見、自由放任のようですが、じつはここに、モトクロス、スノーモビル、トライアルのトップライダーとして、22年間もレースに携わってきた米倉社長の貴重な体験が生かされているのです。

「入会の際に結構気をつけています。「入会したい」というお客さんが来ても即答しないんです。何度か来店してもらったり、レースに行ってもらったりして、クラブの内容や雰囲気を知ってもらおうのと同時に、他のクラブ員と協調していけるかなって、ところをじっくり見ているんです。みんなと仲良くやっていける人であればOK。入会条件はそれだけです」

こうして参加してきた新しいメンバーには、先輩クラブ員が細かいアドバイスを与えています。こんなところからごく自然に、先輩の理想的な関係がうまれているのでしょ。明るく、楽しく、とは言ってもそこはモータースポーツの世界、それなりの厳しさや規律が求められるのは、いうまでもありません。

「今はクラブも土台づくりの時期。やはりモータースポーツをしている人はちがうね。何をやってもしつかりしている」と言われるような人たちの集まりにしたいですね」と米倉社長は、2年目を目前にしたクラブの活動に期待を新たにされています。



ドライビングスクールの保守活動と 店頭展示会で、スポーツユーザーを拡大!

益田二輪商会 川本幸弘社長

島根県益田市曙東町9-2 電話08562(3)4027

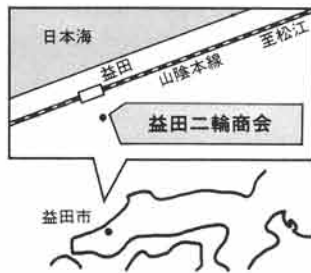
今月は島根県の西端・益田市にやって来ました。柿本人麿ゆかりの地として知られるこの町でお訪ねしたのは、地元の二輪教習所の保守を一手に引受けながら、地域にしっかりと根をおろした「益田二輪商会」さんです。

●二輪教習所のメンテナンスを 一手に担当

この益田市には、専用の2輪教習コースに1周1・3キロのモトクロスコース、さらにトライアルセクションまで設けたユニークな自動車教習所『益田ドライビングスクール』があります。寮制で教習を行っているところから、県内はもちろん遠く広島や大阪あたりからも受講生が詰めかけ、年間卒業生は3千名にものぼるといって大型校です。

そして、原付から大型二輪、モトクロスからトライアル車まで、ここで使われている60台の教習車の保守管理を一手に引受けているのが『益田二輪商会』さん。

「昭和58年に普通免許取得者に対して行なう原付講習用にバッソルIIを納入したのが、



2日に1回は必ず顔をみせる「益田ドライビングスクール」で、同校二輪課長・石川啓二さんと川本社長(右)



ドライビングスクールさんとおつきあいの始まりです」と語る川本社長。
 以来『益田二輪商会』さんのサービス力と迅速な応答が認められて、現在の主力・中型限定クラスの教習車XJ400L、26台の納車や日

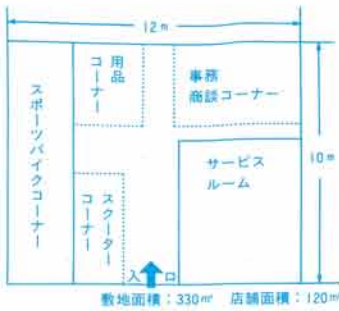
常の保守管理活動へとつながっているのです。

●お店の信頼度アップに直結する 保守活動

「二輪だけでも年間3千人もの卒業生がいるんですから、多い時には1時間で50人、1日400人も教習を受けていることになりましたね。1台の教習車の1日当りの走行距離は40キロ以上、月に千二百キロは超えます。

しかも乗る人は初心者ばかりですから、クランチやブレーキの摩耗、転倒による破損なども一般とは比較にならないほど多いです。そのため、消耗部品や必要なスペアパーツ

は必ずストックしておかねばならない。またトラブルがあればすぐにでも駆けつけて行ける態勢でなければなりませんし、一般のお客さまとはちがった対応がいろいろと求められるんです。ですから2日に1度は必ずこちらからスクールに向かうようにしています」とおっしゃるように保守活動には、いろいろと苦労も多いようですが、それがまたお店の二輪売にそのまま反映されているのです。「しよつ中スクールに顔を出していますから教習生の方とも顔見知りになりますしね。そんな人が卒業後に店のお客さんになってくれる。まわりに対しても毎日の保守活動を通じ



→ショールームのウィンド面は床面を40センチ高くして、最新スポーツモデルを展示



新店舗に移って意欲も新たにご商売に取り組む川本社長(左から2人目)と寺田純治さん、長目和恵さん。左端は、担当の宇山セールス



←益田二輪商会さんがメンテナンスを担当する、『益田ドライビングスクール』は、2輪専用コースからモトクロス、トライアルコースまで備えて全国でも珍しい総合的な2輪講習が行なわれている



↑ショールームの一角に設けたサービスコーナーには、タイヤチェンジャーやホイールバランスや最新機器も揃っている



←若いスポーツユーザーの格好の情報交換の場となっている接客コーナー

●打って出る「ご商売から来店促進へ」
 このように、国道に面して198平方メートルの駐車スペースを持つ新店舗をオープンするまで『益田二輪商会』さんのご商売の中心はスクーター。それも昭和56年から、毎月、欠かさずつづけてきたというスーパー店頭での出張展示会によるものでした。
 「前の店は面積も40平方メートルで、しかも裏道に面していたんです。人目につきませんから、こちらから積極的に打って出ていくしかない。そこで毎月1回、必ず出張展示会をやっていたんです。なにしろ人口5万人強の益田市は老舗の同業店も多い。そんな中で一代目お客さまをつかむには、まず店の知名度を上げることが先決ですからね」
 しかし、ピーク時には1回で40台もの成約を集めたこの出張展示会も、最近では減少の一途。そこで新店舗オープンと同時に、店頭試乗会へと切替えられました。
 「新店舗は目につきやすい国道沿い、駐車スペースも十分ですから、これからは、来店促進に全力投入です。これまでは不可能だった試乗もできますから、立地の良さを最大限に生かした。店頭展示試乗会を、うちの目玉として打出していきます」
 と張り切る川本社長。そのためのDM活動、また店頭展示試乗会をつかんだヤングユーザーに対するドライビングスクール内施設を利用したのモトクロスやトライアルの普及活動、さらにスポーツユーザー拡大のためのYES S活動……などもりだくさんの企画を、ひとつづつ着実に実行に移されているところだ。

■新商品コーナー

カラフルに15バリエーション 『85ヤマハTシャツ』新発売

皆さんと太陽がふりそそぐ夏も目の前。そこで『85ヤマハTシャツ』のご案内です。

昨年に引続いて、今年もヤマハワークスライダーのキャラクターTシャツが登場しました。もちろん、イラストは各ライダーとも'85マシン・ウェアのデザインに統一、カラフルな4色プリントによるフロント&バックの2面刷りという豪華版です。

そのほかに、ジェネシス、SRXイタリアン、SRXの3種類のTシャツも用意。いずれも、パッケージはレコード・ジャケット風にデザインするなど、店頭でのディスプレイがよりしやすくなりました。

キャラクターTシャツは、フロント&バックにカラフルなイラストをプリント



メカニカルな雰囲気がいっぱいのジェネシスTシャツ



■話題のコーナー

MXファンにうれしいウエア ヤマハオフロードウエア



モトクロス競技を楽しむライダーはもちろん、オフロードバイクのお客さまに人気のウエアを紹介しましょう。

ヤマハが今年、自信をもっておすすめするのが、ここに紹介するヤマハオフロードウエア。ホワイト&レッドを基本ベースにした新鮮なカラーリングもさることながら、オフロードランを意識した本格機能が人気の秘密。お客さまがお求めやすい価格設定やジュニアユーザーに対するアプローチも好評です。



メッシュクロスジャージ
●素材/綿&ポリエステル ●カラー/レッド&ホワイト ●サイズ/M、L
■価格/5,800円

メッシュクロスパンツ
●素材/420Dナイロンオックス&ウレタンコーティング ●カラー/レッド&ホワイト ●サイズ/M、L、LL
■価格/25,000円



オーガニックレインスーツ

ハイパフォーマンスレインウェア。被視認性にすぐれ、安全性の高いあざやかなカラーリング。素材は防水性抜群の塩化ビニール。素材表面はディンプル(凸凹)加工。ムレ感を最少限に抑え、濡れたシートでの滑りを防止。フロント部は、雨の浸入をシャットアウトする二重構造の前たて付き。●カラー/レッド&ブルー、レッド&ホワイト、レッド&ブラック、イエロー&ブルー、ブラック●サイズ/M、L、LL

■価格/3,800円

本格的な梅雨を前に ヤマハプリントオーダーレインスーツ

機能性にすぐれ、カラフルなカラーリングで好評の『オーガニックレインスーツ』に、バックプリントオーダーシステムが採用されました。上着の背中に、店名ロゴをオーダープリントしてお店だけのオリジナル・ブランドの誕生です。他のお店では手に入らないから新鮮で付加価値も抜群。シーズン商戦のキャンペーン用にお役立てください。※詳しくは、担当のパーツマンにお問合せください。

■ここが違う/ヤマハ・グッズ



写真左列より上から順に、

- ①エディ・ローソン/90792-60040
- ②ケニー・ロバーツ/90792-60050
- ③河崎裕之/90792-60090
- ④平 忠彦/90792-60080
- ⑤上野真一/90792-60100
- ⑥江崎 正/90792-60110
- ⑦ブロック・グローバー/90792-60070
- ⑧リック・ジョンソン/90792-60060
- ⑨庄司 覚/90792-60130
- ⑩光安鉄美/90792-60120
- ⑪加藤文博/90792-60140
- ⑫伊藤敦志/90792-60150
- ⑬ジェネシス/90792-60160
- ⑭SRXイタリアン/90792-60170
- ⑮SRX/90792-60180

■価格/①~⑭=2,300円、⑮=2,500円

〈新体系の部品番号の概要〉

■サイズ表示の見方

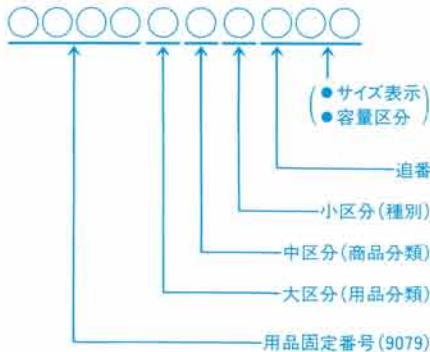
①ウェア・ヘルメット類

- V←SS & XS
- W←S
- M←M
- L←L
- X←LL & XL
- 3←LLL
- φ←フリーサイズ

②ブーツ・シューズ類

- A←22.0cm←34
- E←22.5cm←35←4½
- F←23.0cm←36←5
- G←23.5cm←37←5½
- H←24.0cm←38←6
- J←24.5cm←39←6½
- K←25.0cm←40←7
- N←25.5cm←41←7½
- R←26.0cm←42←8
- T←26.5cm←43←8½
- U←27.0cm←44←9
- Y←27.5cm←45←9½

■部品番号の見方



■大区分の分類

- | | | |
|------|---|-----------------|
| 9079 | 0 | ← マリン純正用品 |
| | 1 | ← MC純正ライダー用品 |
| | 2 | ← // |
| | 3 | ← MC純正オプション・消耗品 |
| | 4 | ← マリン純正用品 |
| | 5 | ← MC純正ライダー用品 |

ご存知ですか—ヤマハ用品の部品番号が新しくなったことを。今年度以降の用品より採用されている新体系の部品番号は、頭の4桁(＝用品固定番号)が『9079』となっているもの。以下も従来番号よりわかりやすい体系のもとで組まれています。

部品番号がわかりやすくなりました

■インフォメーション



ジュニアメッシュジャージ

●素材/綿&ポリエステル
●カラー/レッド&ホワイト
●サイズ/9才用、12才用

■価格/4,800円

ジュニアクロスパンツ

●素材/420Dナイロンオックス&ウレタンコーティング
●カラー/レッド&ホワイト
●サイズ/9才用、12才用

■価格/18,000円

「ロールバーン」&「リーウィンス」をお取扱いの販売店さまへ
ヤマハ・ニューヘルメット「ロールバーン」&「リーウィンス」の供給が遅れており、販売店の皆さまにご迷惑をおかけしております。現在、フル操業で製造に取組んでおりますので、いまましばらくお待ちくださいますようお願い致します。

